

# TOTO

2020年 新春号

Toward a Creative  
Architectural  
Scene

# 通信

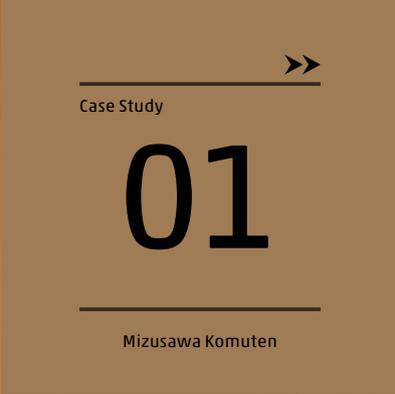


Special Feature  
Passing  
on  
craftsmen's  
skills

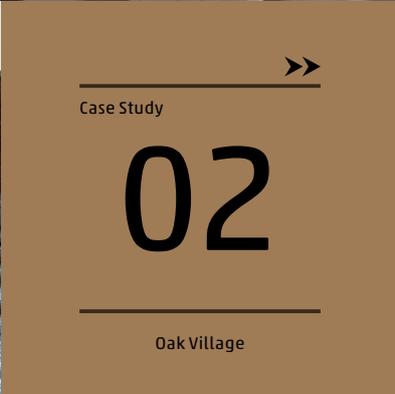
特集  
残す、  
大工の  
技術



オーク  
ヴィレッジ



水澤  
工務店



写真／川迎明伸

写真／川迎明伸

# 大工の技術

大工が減っている。

1995年に76万人いた大工の人口は、2030年には21万人になるといわれている。

プレカット技術の発展により、機械生産でつくられる木造建築が増え、  
大工仕事が必要な、数寄屋をはじめとする伝統建築の需要が減った。

しかし、画一化できない鍛錬の末の技や、木に対する経験は、人の手のうちにまだ確かに残っている。

木のくせを目利きし、精緻に刻み、組み上げる。大工になるには、時間がかかる。

現代の大工たちは、どのような想いでその技術を紡いでいるのだろうか。

使われなければ残らない、大工技術。継承のあり方を考える、建築家や大工たちに話を聞いた。

施工／水澤工務店

4

設計・施工／オークヴィレッジ

14

施工／鯨組

20

設計／竹原義二 施工／谷口工務店

28

構造家／下山 聡

36

シリーズ

旅のバスルーム109 文・スケッチ／浦 一也 パレ・ホテル・エルツヘルツォーク・ヨハン(オーストリア・グラーツ) 40

現代住宅併走45 文／藤森照信 「太田喜二郎邸」 設計／藤井厚二 42

最新水まわり物語51 日本郵政 大手町本社 48

TOTOギャラリー・間で 増田信吾+大坪克亘展  
展示会をします それは本当に必要か。 52

News File TOTO News, Cera Trading News, Books 54

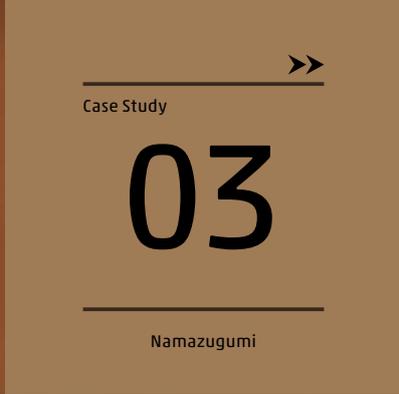
表紙／水澤工務店の棟梁・壺屋健二さんの手と鉋。

表紙撮影／川迎明伸

編集制作／伏見編集室 デザイン／岡本一宣デザイン事務所 印刷／ゼネラルアサヒ



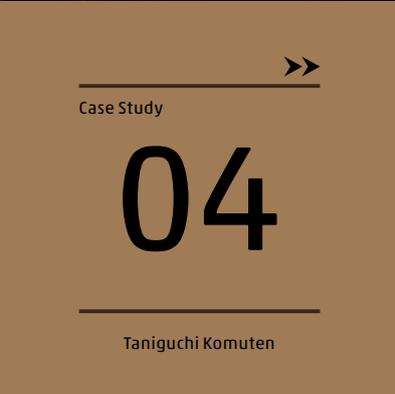
谷口工務店



鯨組



写真/傍島利浩



写真/桑田瑞穂

Case Study

04

Taniguchi Komuten

Case Study

03

Namazugumi

# 特集

Special Feature  
Passing  
ON  
craftsmen's  
skills

# 残す、

## TOTO 通信

Toward a Creative  
Architectural Scene  
Number 523  
New Year 2020

ケーススタディ1	45年を経た、大工技術の「写し」	「谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館 游心亭」
ケーススタディ2	とことん、木の扱い方を伝える	「杉の井 穂濤・離れ」
ケーススタディ3	ふたつの茶室を、二世代でつくる	「島津山の茶室」
ケーススタディ4	あえて大工のディテールだらけ	「大津百町スタジオ」
ケーススタディ4+1	竹原義二との構造設計術	

『TOTO通信』は  
インターネットでも  
ご覧いただけます。

🔍 <https://jp.toto.com/tototsushin>



# 45年を経た、大工技術の「写し」



動画をご覧  
いただけます。



「谷口吉郎・吉生記念  
金沢建築館」に再現され  
た「游心亭」の広間。施  
工を担当した水澤工務  
店の4人。



作品 「谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館 游心亭」

設計 谷口建築設計研究所

施工 水澤工務店

1974年に竣工した建築家・谷口吉郎氏の名建築、  
迎賓館赤坂離宮・和風別館「游心亭」。  
2019年、その忠実な再現が、  
谷口吉生氏設計の「金沢建築館」の中に完成した。  
施工を担ったのは、どちらも水澤工務店。創業から105年。  
数々の名建築を、大工技術で支えてきた彼らの技術は、  
いかに継承されてきたのだろうか。

聞き手・まとめ／伊藤公文 写真／川辺明伸

Special Feature

Passing  
on  
craftsmen's  
skills

Case Study

01

営業

雨宮敏夫

現場監督

内野桂太

棟梁

壺屋健二

代表

水澤孝彦

# 迎賓館 赤坂離宮から 金沢建築館への 「写し」

——迎賓館赤坂離宮・和風別館「游心亭」（以下、和風別館）の広間・茶室の施工は、それまでの民間工事ではなく、水澤工務店にとって稀な公共工事だったそうですね。

代表・水澤孝彦 創業者である先々代の水澤文次郎が社長を務めていた時代のことですが、初めての公共の仕事で、それも特別に重要な施設でしたから、強い緊張感に包まれて仕事がなされたと伝え聞いています。それ以前に、谷口先生の仕事は「山種美術館」（1966）や「出光美術館」（66）の内装などを担当させていた দিয়েいまして、一連の対応や出来ばえに対する信頼が和風別館の仕事につながったと推量します。

——今回はどのような経緯でその忠実な再現（以下「写し」）の施工を担当されることになったのでしょうか。

営業・雨宮敏夫 公共工事ですから特命で

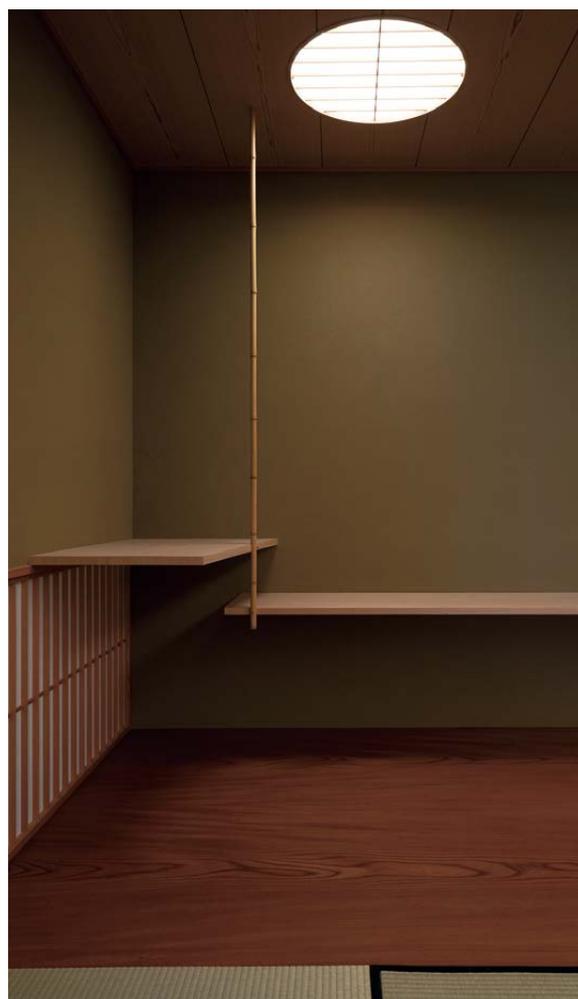


Special Feature

Passing on craftsmen's skills

Case Study

01



図面ではわからない  
納まりを検討するため、  
迎賓館赤坂離宮に  
何度も通いました。

広間床脇の違い棚。地板は檜、棚板は桐。2枚の棚板を直径13mmの竹の吊り木で支えている。この繊細な納まりを実現するため、仮設の架構で棚板を支えながら施工を行った。見えない工夫が繊細なディテールを可能にしている。

はありませんが、2010年から資料作成などの作業にたずさわっていました。現状の調査、実測などです。そこから足掛け9年、長い道のりでした。

——谷口吉生氏の意気込みは大変なものがあつたでしょうね。

水澤 おじいさまが九谷焼の窯元で、戦時中はここに疎開していた経験をおもちで、おそらくお父さまとの約束もあつたことでしょうか。並々ならぬ熱意で取り組まれていることが私たちにもひしひしと伝わってきました。

——当時の図面は残っていたのですか。

雨宮 設計図や施工図などは、水澤工務店で保管し完全に残っていました。けれども現場は生き物で変更はありますし、大工は図面をよりどころにしながらも原寸を自ら描いて細部を決めて施工しますから、図面から仕上りの状態の隅々を確認できるわけではありません。

現場監督・内野桂太 とくに納まりを検討する段になると、図面からではわからないところが多々あり、和風別館に何度も足を運びました。広間の大スパンの長押・鴨居と柱の精巧な納まりに見られるように、見えがかりよりは、形状を可能にしている仕

組みとか裏側の工夫ですね。実物に教えられることはたくさんあります。

——そのまま「写す」のが基本だったとしても条件は違い、対応は容易なことではなかったと推測しますが。

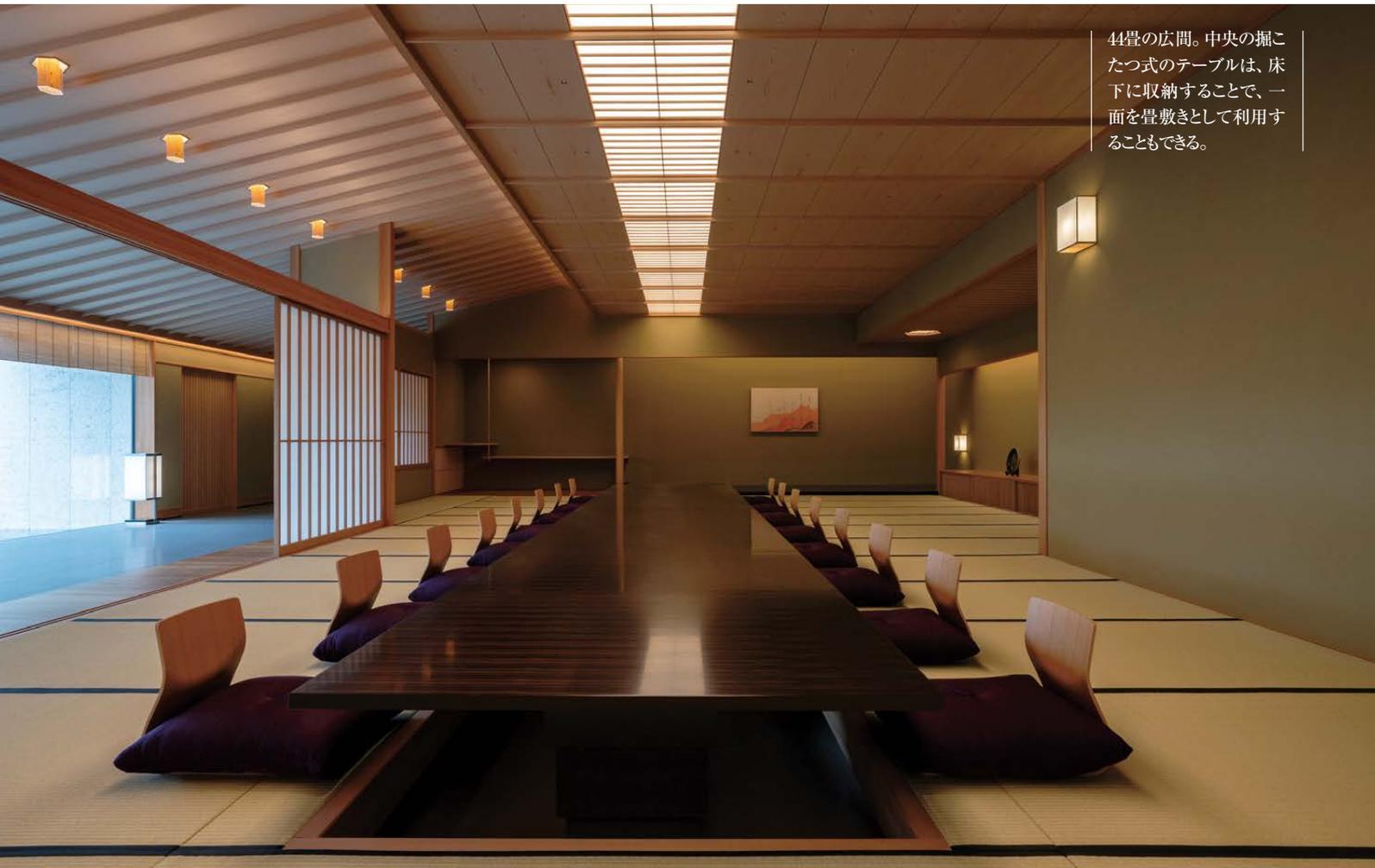
水澤 ここに限られません。今の時代に和風の建築や空間をつくる際には、消防火に適合させることが高いハードルになっています。和風の設えと消防火が定める不燃、準不燃などの決まりはなじみにくい。やむをえないことですが、年を追うごとにハードルが高まり、昨日可能だったことが今日ではできないことが間々あつて、そのつど対応をせまられているのが現状で、今回の「写し」でも数々の工夫を要しました。

内野 たとえば、茶室の天井の桐の網代は不燃の認定をとっているものでないと使えません。寸法が微妙に合わなくて、つなぎ目のところで苦労しました。それと空調設備が昔と今では大きく違います。今のニーズに応えるには高度な空調設備が必要とされますが、それらが仕上りの姿に障らないようにするために、設計側と施工側で綿密に検討をしました。

## 倉庫に眠っていた オリジナルの 材料を発見

——材料の点ではどうでしたか。

雨宮 和風別館の施工から40年以上たつていますから、事情はまったく違います。とくに木材についてはそうで、良材が得がた



44畳の広間。中央の掘こたつ式のテーブルは、床下に収納することで、一面を畳敷きとして利用することもできる。

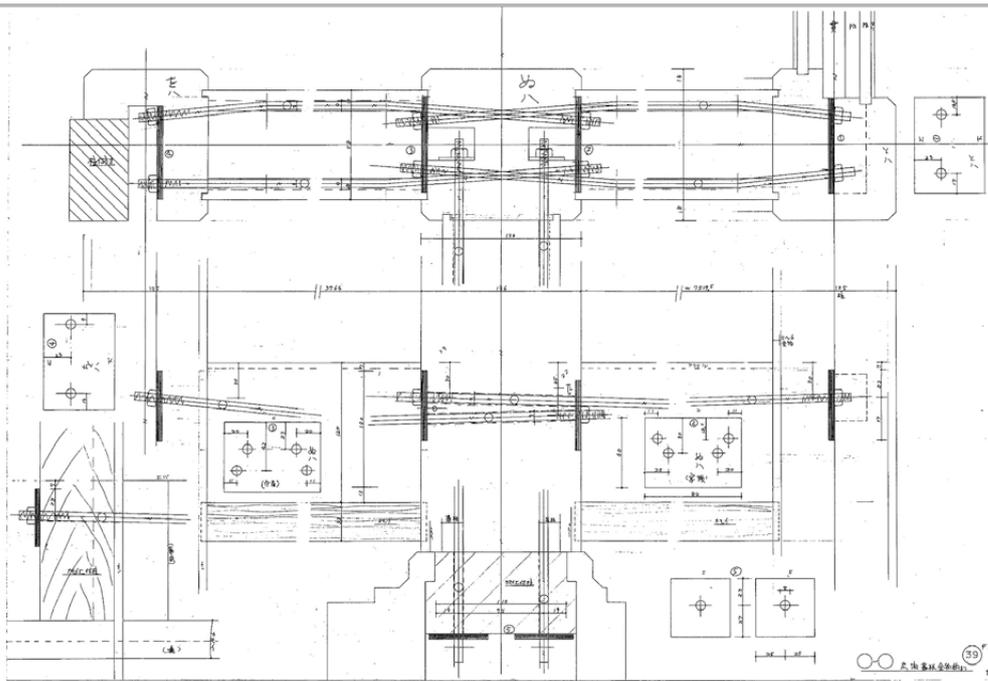


広間より水盤を見る。緑の向こうは犀川。天気の良い日には水盤に反射した光が天井で揺らぐ。

# 柱と鴨居まわりの詳細図

0 0.5 1m

1/65



水澤工務店が描いた、広間の柱と鴨居まわりの手描き詳細図。広間の広縁側の柱スパンは7.5m (左ページの写真)。谷口吉郎は、柱間に架け渡された鴨居に吊り束を用いないことで水平性を強調した。鴨居がゆるまないようにするために、水澤工務店は幕板の内側に溝を突いて、金物を通す方法を開発。柱にボルトで連結して締めることで、金物が引っ張られて鴨居が水平に保たれている。



## 施工風景



写真右／柱と鴨居の取り付け。柱と金物がボルトで連結されている。左／幕板の内側の溝に、鴨居をゆるませない円弧状の金物を取り付けている。



写真2点、提供／水澤工務店

Special Feature

Passing on craftsmen's skills

Case Study

# 01

「写し」は寸法、材料、工法を同じにすることだけでなく、オリジナルの雰囲気再現が大事。

い状況が進んでいます。柱、鴨居、廻り縁など赤松が多く使われていますが、赤松の材そのものが少なく、節のない良材は入手がきわめて難しい。今回の仕事では、私自身、岐阜の山中に分け入ったりして、可能な限りオリジナルに近い木材を求めるよう努力しました。

**内野** 茶室の柱はすべて北山杉の面皮ですが、オリジナルでは床柱だけわずかに絞りが入っています。その絞りの具合が微妙で適材が見つからず、現地の材木屋に出向き、直接目で確かめて最良のものを選びました。

**水澤** 目がすっきり通っている材とか長い材は入手が本当に困難です。きびしい自然環境のもとで育ち、枝打ちなどの管理が行き届いている木から目が細かくて節のない、数寄屋に適した材が得られるのですが、そういう状態が保たれなくなっています。

**棟梁・壺屋健二** 広間の広縁側の柱のスパンは7・5m

あって、オリジナルではその長押し・鴨居の表面材は一枚ものでした。今回はそうはいかず、やむなく途中で継

いでいますが、継ぎ目がほとんど目立たないように工夫しました。

**両宮** それでもいくつかの木材は、水澤の倉庫に当時余分に確保していたものが残っていて、それを使うことができました。広縁と広間のあいだの式台の楠材、襖や屏風の枠のケンボナシ材、茶室の地板のやに松がそうです。

—— 奇跡的なことですね。

**水澤** 水澤の倉庫は玉手箱だと谷口先生から言われました(笑)。もうこれ以上は出てきませんが。

—— 「写し」にあたって設計上で変更点はありませんか。

**水澤** 広間の天井にLEDのスポットライトを設置し、テーブルを照らすようにしたことです。昔に比べると室内環境が明るくなってきていて、ある程度の明るさでないと料理がはなやかに見えないという判断からでしょう。

**内野** 変更ということではありませんが、和風別館と異なるのは、扉ひとつでモダンな空間と仕切られたかたちになっていることです。谷口先生はその境界のところのデザイン、納まりに注力されていました。壺屋棟梁が何度も原寸を描き直して今の姿になりました。

—— 材料が得にくくなっているとのこと



広間の広縁側の柱。3方向から大スパンの鴨居が渡されている。写真奥は12畳の次の間。

すが、扱う職人も少なくなっているのではないのでしょうか。

水澤 一般的にいえばまさにそうで、大工をはじめ急速に少なくなっています。私たちの周囲ではやや事情はよいように思います。今回の仕事でいえば、各職方それぞれに後継を得て、脈々とつづいているケースが多い。たとえば広間。床の間の地板の漆仕上げは、和風別館を手がけた同一人が今回も手がけていて見事な仕上がりがですが、そこでは20歳そこそこの女性が職人として志をもって働いています。

両宮 襖と屏風の表は同じ椿の図柄の金欄、銀欄の織りですが、工場にサンプルが残っていたので、当時のままに再現されています。次の間の照明器具にしても同様で、技量の継承は途切れていないと思います。

## 大工の 独り立ちには 20年かかる

——職人は技量を習得するための修業期間を要するわけですが、今の若者が耐えられ

鉋がけは、削り3年研ぎ8年。

一通りこなせて独り立ちするには、  
計20年というところですよ。

るものでしょうか。

壺屋 自身は知り合いの建具職人が水澤の仕事をしていたので、その人の紹介で入りましたが、今の人のほとんどは雑誌のほかの情報から水澤工務店にそこがれを抱いて入ってきます。ですからみなモチベーションは高く、長く続きます。

——修業というか研鑽の期間はどれほどですか。

壺屋 鉋がけにしても削り3年研ぎ8年といえますから、10年で一区切り。一通りこなせて独り立ちするにはあと10年、計20年というところでしょうか。

——鉋がけはそれだけ難しい。

壺屋 杉の表側の白いところ、白太といいますが、そこをきれいに仕上げられて一人前ですね。砥石、台の調整（台ならし）などすべてが揃わないとできません。

水澤 手がける仕事は種類も要求も違う。そのつど挑戦する気持ちでいるうちに技量が高まっていくのだと思います。ですから研鑽に終わりはなく、どこまでもつづいていくのが正しいのではないのでしょうか。

壺屋 20年は長いようですが、過ぎてみるとあつという間。私もついこの前まで10代のつもりでしたら、気がつく70代（笑）。

内野 伊勢神宮の遷宮が20年ごと、山口の錦帯橋も同じだったように思います。構築

物の耐久年数よりはるかに短い期間で改築、新設が行われるのは、技量の継承という点から合理的な年数ではないのでしょうか。

## 数寄屋の仕事

### 途絶え

### させないために

——技量の伝承はどのように行われているのですか。

水澤 「仕事は盗んで覚えろ」というフレーズがありますが、昔はそのとおりになっていた棟梁もいたようです。水澤工務店では、大工24人を5班に分けて、班ごとに棟梁がついていますが、昼休みには、作業中の木の仕口に手ぬぐいをかけて隠してしまう（笑）。子方はすばやく手ぬぐいを持ち上げて覚える。いじわるというより、知りたいたいという気持ちを高める方法だったのかもしれない。でも今は違います。

壺屋 私は親方から叱られたことがあります。叱られて覚えるということはない。私も叱りません。

水澤 棟梁、叱らないで仕事を進める秘訣を教えてください（笑）。

——技量うんぬんは仕事あつてのこと。数寄屋の需要は次第に少なくなっているの

はないのでしょうか。

水澤 10年ほど前は、あるいは遠からず途絶えてしまうのではないかと思うこともありました。けれども近年、若い人たちの日本の美意識に対する関心が高まってきたり、海外の人たちをもてなす場として和風が好まれるなど、風向きがかなり変わってきています。雑誌やテレビなどに取り上げられることも多くなっています。

現状で危惧しているのは数寄屋の設計者が年々減少していることで、水澤の設計室にはかわりが深かった吉田五十八先生の薫陶を受けた板垣元彬先生の事務所にいた方に入っていたいただき、後継の育成にあたってもらっています。

——両宮さんは今回の仕事の全過程にたずさわったわけですが、最も大事にされたことは何でしょうか。

両宮 「写し」は言葉では伝えられない雰囲気、気が大事だということですね。寸法、材料、工法をまったく同じにしても、オリジナルの雰囲気再現できるとは限らない。幸い、竣工したとき、先生から合格点をいただいたので、ほっとしました。

水澤 以前、吉田五十八先生設計の小住宅を老朽化に伴い解体復元しましたが、現場には先生を熟知していた元現場員がたずさわりました。これは「写し」と同程度に難しく、風合いに違いが出ないことが求められました。和風の「写し」は難しく、奥が深いです。今回の「写し」にしても、多くの方々に見ていただき、批評・感想を寄せただけならば、一同、それをあげみとして精進してまいりたいと思います。



Special Feature

Passing on  
craftsmen's  
skills

Case Study

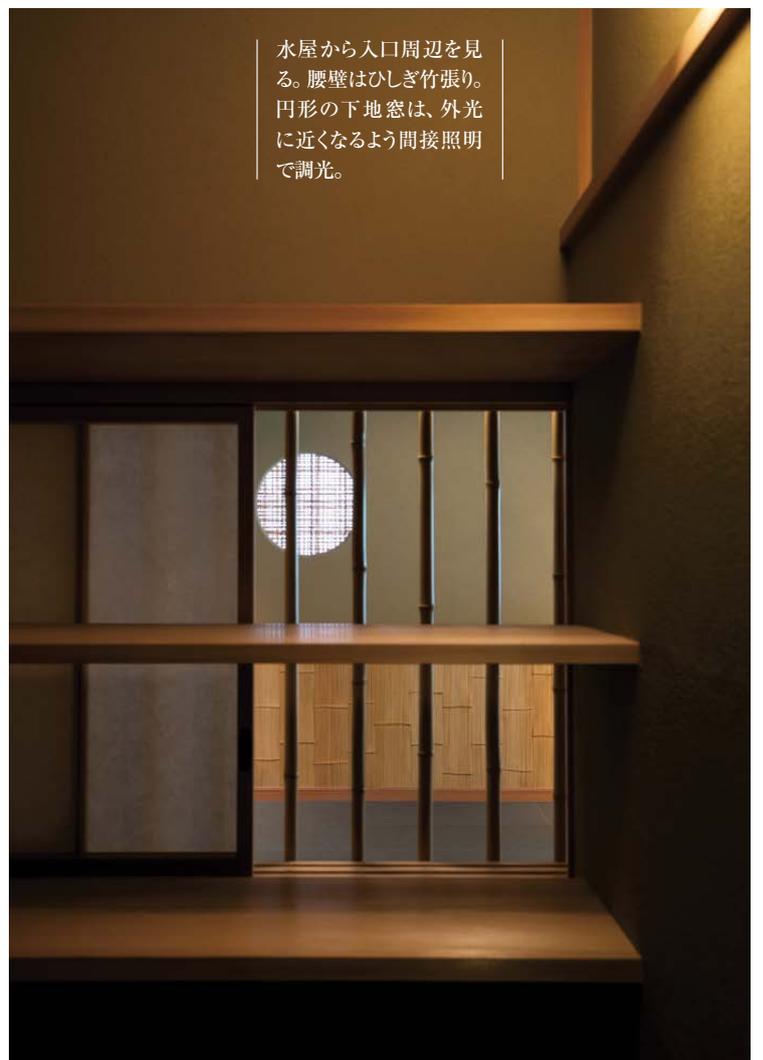
01



立礼席の茶室全景。能舞台状の四畳半で主人が茶をたて、客は周囲の席に腰掛けながら接待を受ける。



点前座上部の天井、桐の網代天井、竿縁の掛込天井のあいだには、空調設備が設置されている。



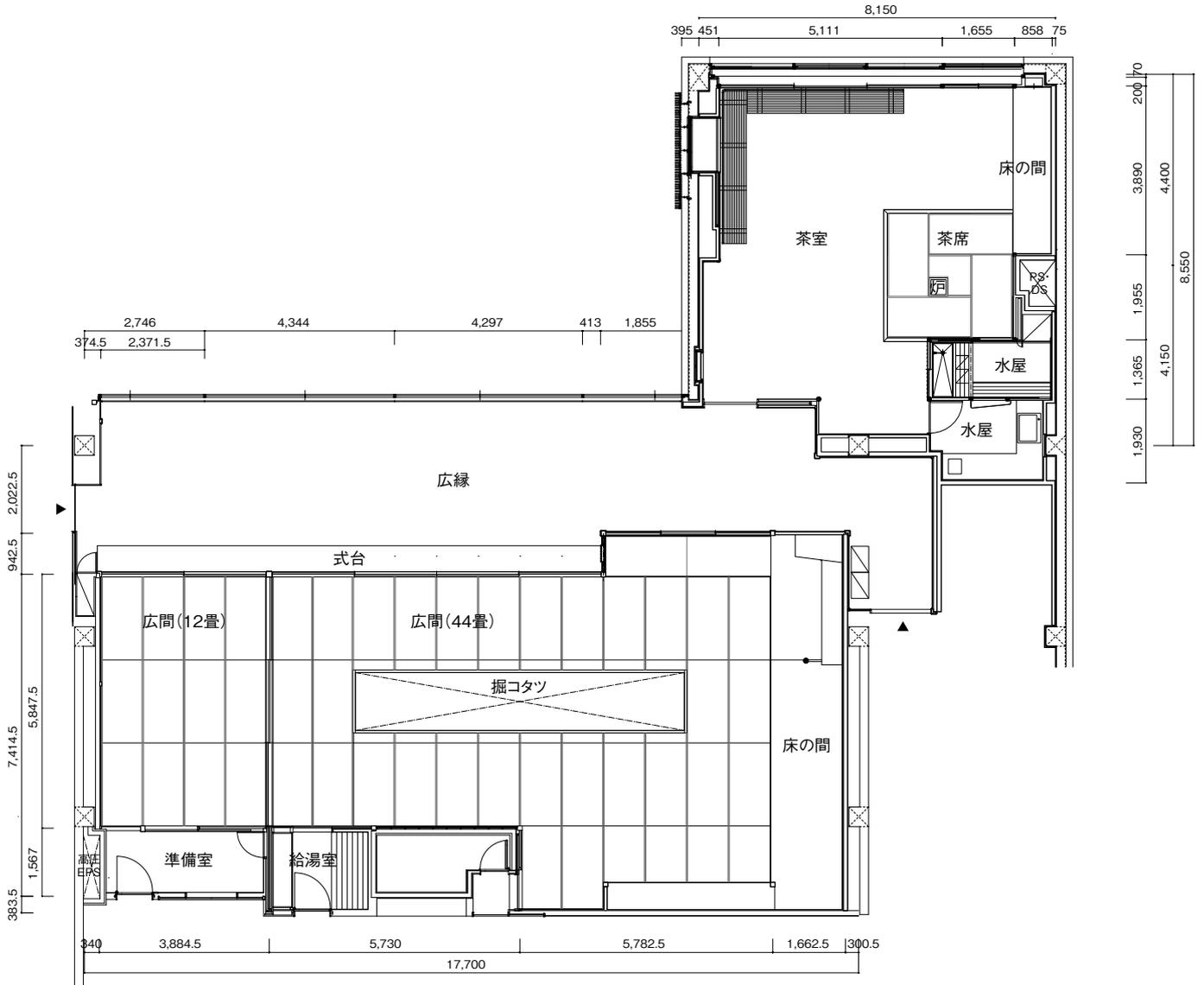
水屋から入口周辺を見る。腰壁はひしぎ竹張り。円形の下地窓は、外光に近くなるよう間接照明で調光。

# 平面図(「游心亭」の再現箇所)



0 1 2m

1/150



**内野桂太**  
Uchino Keita

うちの・けいた／1976年東京都生まれ。2000年工学院大学工学部建築学科卒業。06年、ハウスメーカーを退社後に水澤工務店へ入社。おもな現場監督作品=「流芳庵茶席増築工事」(13)、「浜離宮庭園燕 御茶屋復元整備工事」(15)、「浜離宮恩賜庭園鷹 御茶屋復元整備工事」(18)など。



**壺屋健二**  
Tsuboya Kenji

つぼや・けんじ／1948年東京都生まれ。1968年日本大学短期大学部工科建設科卒業。父親が大工だったため、幼い頃からものづくりにあこがれ、さらに高度な数寄屋建築を勉強、希望して大工の道へ。76年～水澤工務店。おもな施工担当作品=「重要文化財 自由学園明日館保存改修」(2001)、「徳藏院 本堂・社務所・釈迦堂」(05年・12年・15年)、「鎌倉見晴邸離れ」(12)など。



**水澤孝彦**  
Mizusawa Takahiko

みずさわ・たかひこ／1968年東京都生まれ。93年大阪芸術大学建築学科卒業。93年～AA School留学。97～99年芦原太郎建築事務所勤務。2000年～水澤工務店。03年～同社代表取締役。祖父・文次郎、父・晴彦に続く3代目。05年「平山郁夫シルクロード美術館」(04)でグッドデザイン賞を受賞。14年に水澤工務店は創業100周年を迎えた。



南東側の寺町通りから見た外観。

## 「谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館 游心亭」

### 組織概要

株水澤工務店

創業 1914年

社員 83人

大工 24人(うち棟梁5人)、

外部協力10人

2018年の施工棟数 16棟

大工の平均年齢 約46歳

(最年長:71歳、最年少:21歳)

おもな使用木材の産地 奈良県吉野、長野県木曾など

加工場 東京都江東区木場、

東京都江東区新木場

### 建築概要

所在地 石川県金沢市寺町

主要用途 美術館

建主 金沢市

設計 建築:谷口吉生/  
谷口建築設計研究所

構造設計 構造計画プラス・ワン

主体構造 鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)

施工 清水・豊蔵・双建特定建設工事  
共同企業体

階数 地下1階、地上2階、塔屋

敷地面積 2,032.64㎡

建築面積 823.58㎡

延床面積 1,570.39㎡

設計期間 2015年11月~2017年2月

工事期間 2017年6月~2019年5月

### おもな外部仕上げ

屋根 アスファルト防水

外壁 ブラジル産花崗岩 WJ仕上げ、  
アルミパネル

フッ素樹脂焼付け塗装 t=4mm

開口部 アルミカーテンウォール

フッ素樹脂焼付け塗装、

アルミパイプルーバー

電解二次発色

外構 南アフリカ共和国産

花崗岩ラステンパース

t=30mm JP仕上げ、洗出し舗装

水盤 インド産花崗岩インド黒

t=30mm JP仕上げ

### おもな内部仕上げ

常設展示室2(広縁・広間、茶室)

床 イタリア産玄武岩バサルティーナ

t=30mm 水磨き仕上げ、

京間畳 t=55mm 赤松畳寄

壁 新京壁左官塗特注色、

ヒシギ竹張腰壁

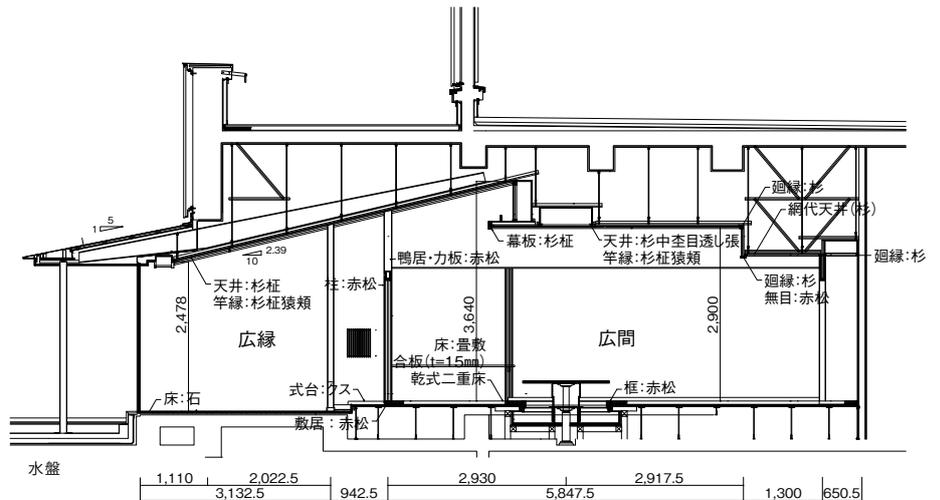
天井 杉柁勾配天井 杉柁猿頬竿、

杉柁うづくり目透張 特注銅釘打ち

## 広間断面図

0 1 2m

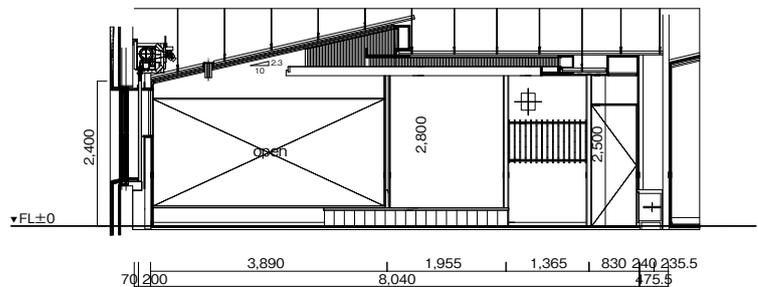
1/125



## 茶室断面図

0 1 2m

1/125



雨宮敏夫  
Amemiya Toshio

あめみや・としお / 1953年山梨県生まれ。76年日本大学工学部建築学科卒業。76年~水澤工務店へ入社。76~2002年は現場監督を経験。02年~営業を担当。おもな現場監督作品=「目白ハウス新築工事」(1988)、「松籟亭新築工事」(90)、「聖徳学園理事長公邸新築工事」(93)など。

# とことん、木の扱い方を伝える

設計施工にこだわりつづける、オークヴィレッジ。

設計側にも施工側にも、木をどう扱うべきか、  
共通認識をもたせるためだという。

どの材種がよいか、どの構法を生かすのか、  
日々の鍛錬が、現代の木造への試みにつながっている。

聞き手・まとめ／大山直美 写真／川辺明伸

棟梁

今福貫之

建築家

上野英二

作品 「杉の井 穂濤・離れ」  
設計・施工 オークヴィレッジ

Special Feature

Passing  
on  
craftsmen's  
skills

Case Study

02

「杉の井 穂濤・離れ」の客席。金沢の伝統町家に伝わる構法「準棟纂羅」で組んだ空間にオークヴィレッジのふたり。



→入口まわり。隣接する明治期の建築を改装した料亭に合わせた門構え。



←写真右／入口ドアまわりはガラス張り。左ページ／水庭に面した客席。桜をはじめ、季節ごとの景色が映り込む。

→木造小屋組など伝統技術の粋をつくす一方で、開口まわりはフルハイトのガラス張りで明るくモダンな造り。



## 金沢の伝統町家の構法を取り入れた

「杉の井穂齋」は明治末期の邸宅を改装した由緒ある料亭ですが、まずその隣に昼膳や和スイーツが楽しめる「離れ」が生まれ、経緯をお聞かせください。

建築家・上野英二 オーナーは2004年、金沢21世紀美術館のそばに和甘味の店を開きましたが、若い観光客が列をなすほどの人気で、なかなか地元の人には行きづらい店になってしまったんです。そこで料亭の隣の古家を改修し、もっと地元のお客さまにも楽しんでいただける店をつくりたいということ、設計を依頼されました。最近では畳に座布団という料亭のスタイルをいやがるお客さまも多く、また将来店を継ぐご子息のためにも、これから先を見すえた料亭として、椅子席とすることを親子で話しあわれたそうです。

水庭を配したモダンな空間に、あえて伝統的な構法による小屋組を取り入れたのはなぜでしょうか。

上野 丸太梁の上に小さな東柱を立てた小屋組を見せ、吹抜けの大空間をつくるこの手法は「準棟纂幕」と呼ばれ、飛騨高山の名家にも見られる独特の造りです。私は飛騨高山で生まれ育ったので、地元特有の構法かと思っていたのですが、調べていくうちに金沢にも同じ構法で建てた家があることがわかってきた。京町家にも似た構法はありますが、大工がちゃんと木組の技術を使っている準棟纂幕は金沢と飛騨

高山の上質な町家にしか残っていません。それで、せっかく金沢で仕事をするなら、本物の準棟纂幕を使った空間をつくりたいと思ったわけです。ただ、設計者は図面を描けばいいのですが、施工する側は大変です。全部現しにするからごまかしが利かず、自分の力量が問われる。材料もいいものを準備する必要があります。

## 大工に必要な「木組」「人組」

棟梁の今福さんは準棟纂幕を手がけたご経験はありましたか。

棟梁・今福貫之 いや、ここが初めてです。最初にこの構法でいくと聞いたときは、大変そうという気持ちと、腕が鳴るという気持ちとでは、どちらが勝っていたんでしょう。

今福 うーん、まあ図面どおりにやればできるかなと(笑)。うまくいくかどうかは、材料の木をちゃんと理解し、それを生かせるかどうかにかかっているんで、自分がどうこうしてやろうという気持ちはないですね。

材料は地元産のものが多くいのでしょうか。

上野 適材適所ですね。たとえば、重さや風格、木目の美しさが求められる大黒柱には、飛騨だと栗や樺がよく使われますが、樺は木目がはっきり出て和のイメージが強すぎるので、ここではそこまで強くない栗を使いました。梁には粘りがあり、曲がり強い木をとということで、飛騨に自生する



貴重な姫小松（五葉松）を使っています。

——材料は上野さんが選ぶのですか。

**上野** 迷うことはあるので、棟梁と相談して決めます。柱1本でも見せる面によって木目の表情が異なるため、それによって落ち着かなくなったり、非常に静寂な空間になったりしますから。

——丸太梁みたいになつすぐじゃないものは、どこまで工房で加工して、どこから現場で調整するのでしょうか。東の高さなどは図面上では計算できませんよね。

**今福** ここに運び込むときはもう全部決まっています。水平をどこでとり、

どれぐらい曲線

をつけるか、途

中でつないだ丸

太梁が1本の自然な曲線に見えるかを、墨

付けの段階で何度も検討します。工房で本

番どおりに組むことはできませんが、重要

な部分は組んで確認しています。

——この店の場合、強い木目の樺を避けた

くらいだから、あまり強いカーブが出すぎ

てもまずいでしょうね。

**上野** そうですね。かといって、直線すぎ

ると空間がかたくなりすぎる。

——上野さんが求めるちょうどいい塩梅が、今福さんにはわかつているんですね。

**上野** そうなんです。それはいくら言葉をつくしても、わからない人にはわからない（笑）。

彼は建主の想いも絶妙にわかってくれるので、オーナーからも非常に信頼されています。きびしい設計者やオーナーの想いを受けとめ、みんな丸く収めて形にしていくな棟梁はすごいと思います。いくら技術をもっていても、誰にでもできる仕事ではありません。

施工する側は大変です。

小屋組を現しにするからごまかしが利かず、

力量が問われます。

——しかも、癖のある職人衆とのコミュニ

ケーションもうまくとる必要がありますね。

**上野** そのとおりです。法隆寺の西岡常一

棟梁がおっしゃっていました。まさに「木

組も人組もできる」人でないと務まらない。

——今福さんは「人組」について、何か心

がけていらつしやることはありますか。

**今福** 初めての業者さんには、こちらの想

いや最終的な完成形のイメージを伝えて、

みんながそこに向かってるんだと意識さ

せることでしょうか。そのためには、人一

倍動かなくてはなりません。まあ、こち

らが楽しんで仕事をしていることが伝わ

ればいいかなとは思っています。だから、な

るべく「こんなことはやれない」とか、愚

痴は言わないようにしていますね。できな

いことはないと思っていますので。

#### Special Feature

Passing on craftsmen's skills

Case Study

# 02

——なるほど、口で言うより体現していらつしやるんですね(笑)。

## 職人の幅を広げる 設計施工

——オークヴィレッジは自社で大工を抱え、設計施工を一貫して行うことを基本にしていますが、それはなぜですか。

**上野** 木造の場合、鉄やコンクリートといった均質な工業材料ではなく、一本一本個性が異なる木を使うため、木をどう扱うかがとても大切になります。木材も当然、自分たちが準備し、その材料を設計側も施工する側も理解したうえで、全体のバランスを組み立てていかなければなりません。ここで用いた丸太梁にしても、設計が始まってから用意したのでは間に合わないの、いつ使うかわからないものを毎年ストックして、何年も乾かしておく。技術のある棟梁や職人を確保するのも同じことです。設計はできたけれどもいい材料が揃わなかったとか、せっかくの材料を技術力のない大工が台無しにしてしまったというのでは、信頼して任せてくれたオーナーに対して責任が果たせませんから、設計施工はあたりま



Special Feature

Passing on craftsmen's skills

Case Study

02



### 木造は一本一本

個性が異なる木を使うため、  
どう扱うかが大切です。

えだと思っています。

——現在、社員の大工さんは何人いますか。  
**上野** 社員は4人で、それ以外に昔から私たちの仕事をしてきている常用の大工さんがふたりいます。最初はなかなか大工が育たなかったのですが、今は棟梁になれる人材が今福をはじめ、複数名育ったので、彼らのもとに若い大工がついて、いい形でチームとして動けるようになりました。

——今福さんは設計施工のメリットについて、どうお考えですか。

**今福** 施工側だけで建物をつくると、どうしても無駄が出ないようにとか、施工側の都合が優先されがちです。そのようにして建てられた家は、だいたいどれも同じように見える。その点、設計サイドの想いがのびてくると、毎回違うものが意匠として表現されるので、そのあたりがいいのではないのでしょうか。

——そもそも、今福さんは大工の専門学校で学んだ後、どうしてオークヴィレッジに就職しようと思われたのですか。

柱や梁には適材を用いる。大黒柱は栗。梁は姫小松。柱や土台に使用した檜と木目が似ていて、なじみやすい。

**今福** まさに今言ったようなことが理由です。技術力が高い工務店も考えましたが、伝統構法を現代に生かそうとするなら、現代の暮らしに合う空間をデザインするところで仕事したいと思っただけです。

## 伝統構法は未来の 構法でもある

——今後、大工を育成し、技術を継承していくためには、何が大切でしょうか。

**今福** 短期間で乾燥させた材料を使用し、木という素材を工業製品のように扱って、木造住宅をつくっている会社もありますが、

それでは木をちゃんと生かされていくとはいえません。何百年前の古民家を改修すると、ああ、昔の大工はこうやってきたのかと刺激を受けますが、木はそんなふうな時を超えてちゃんと受け継がれていく材料なので、自分たちも木の命に寄り添えるような仕事をするのが、次の世代の大工の育成につながるのかなと。この現場でも樹齢何百年の木に触れたことは若い大工には貴重な経験になったはず。伝統構法とはいいますが、今から未来につながっていく構法なんだと思います。

**上野** 設計者の立場としても、魅力的な建物をつくりたいと考えるオーナーと出合い、こういう建築をつくってみたいという印象を人に与えるようなものを発表していくことが大切なんだろうと思います。「100年かかって育った木を100年使えるものに」というのがオークヴィレッジのモットーですが、どうしたら耐久性だけでなく、100年たつて生活様式が変わっても魅力を失わない建築をつくれるかが、私が考えつづけているテーマです。日本の木造は決して古いものではなく、どんな時代にも合うものだと思うので、そういう文化や技術を残していきたいですね。

### 施工風景 木の個性を 工房で 確認する



写真上/工房にて仕口を削り出し、仮組みまで行う。下/木目を見て、どのように削るべきか、上野さんと担当の棟梁が話しあう。



写真2点、提供/オークヴィレッジ



北東側外観。犀川ほとりの「犀星のみち」沿いに立地する。

## 「杉の井 穂濤・離れ」

### 組織概要

オークヴィレッジ株

創業 1974年

社員 66人(正社員:49人)

パート:17人)

大工 社員4人(うち棟梁3人)、  
外部協力4人

2018年の施工棟数 5~6棟

大工の平均年齢 約40歳(最年長:52歳、  
最年少:24歳)

おもな使用木材の産地 岐阜県、長野県など

加工場 岐阜県高山市

### 建築概要

所在地 石川県金沢市  
清川町164番、  
165番、166番の各一部

主要用途 飲食店  
設計 オークヴィレッジ  
木造建築研究所

構造 木造  
施工 オークヴィレッジ

階数 平屋  
敷地面積 294.40㎡

建築面積 85.93㎡

延床面積 77.67㎡

設計期間 2016年6月~11月

工事期間 2016年12月~2017年3月

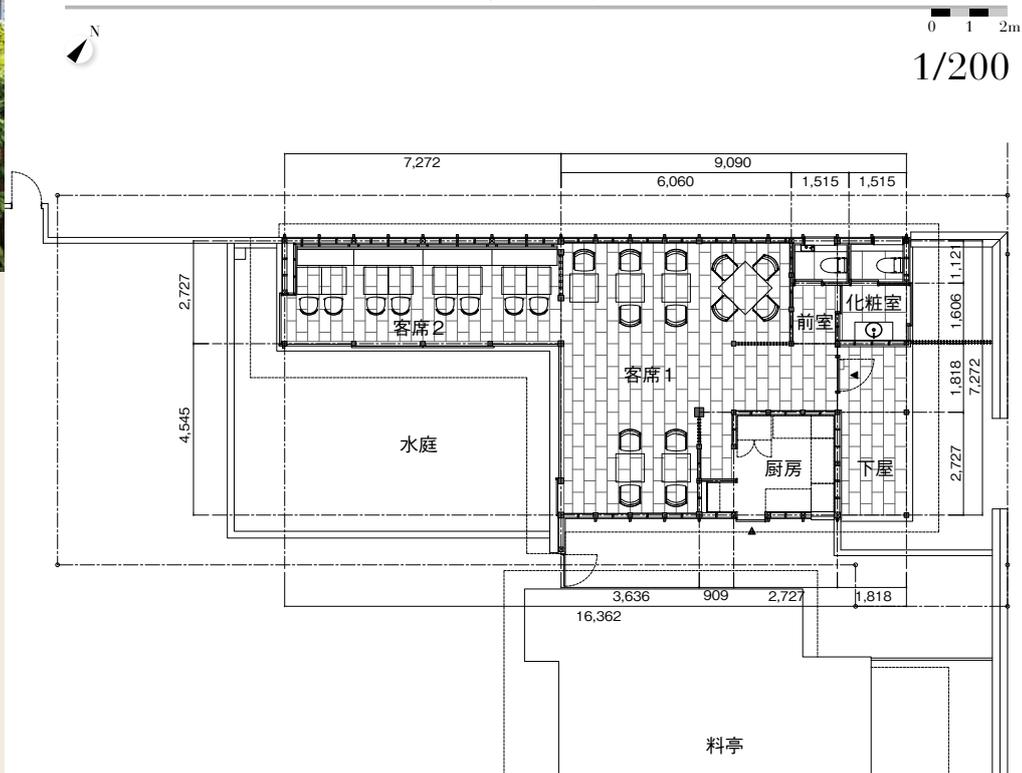
### おもな外部仕上げ

屋根 ガルバリウム鋼板  
壁はぜ葺き、万十瓦  
外壁 ジョリパット吹付、わら聚楽  
開口部 木製建具、アルミサッシ  
外構 水庭石:滝ヶ原石、  
水庭床:カラクリート

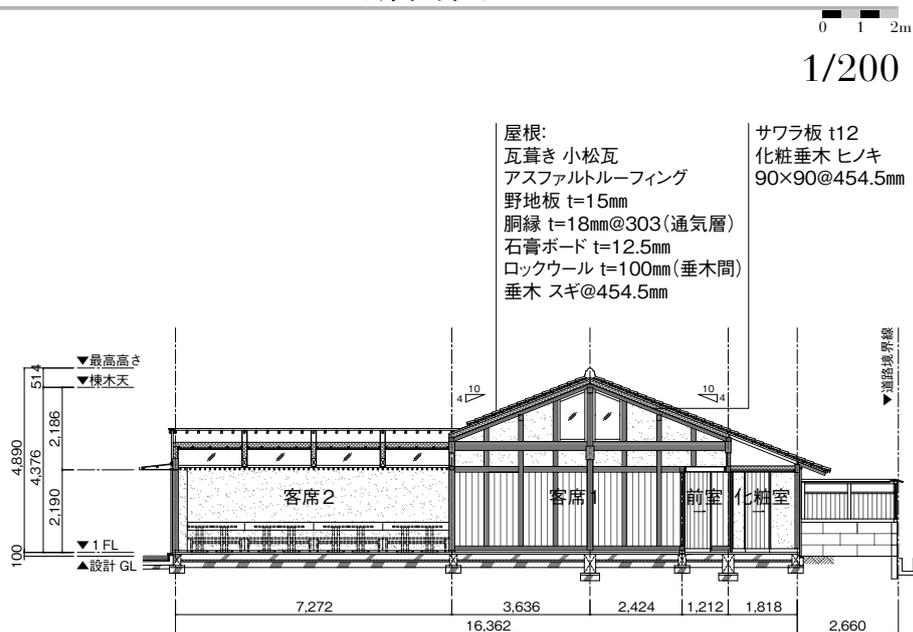
### おもな内部仕上げ

玄関、客席  
床 滝ヶ原石  
壁 サワラ板張り、  
土壁 中塗り仕舞  
天井 サワラ板張り  
客席2  
床 滝ヶ原石  
壁 土壁 中塗り仕舞、  
ジョリパット吹付  
天井 木製ルーバー、  
ジョリパット吹付  
化粧室、便所1・2  
床 滝ヶ原石  
壁 大津磨き  
天井 サワラ板張り

## 平面図



## 断面図



今福貫之  
Imafuku Kanshi

いまふく・かんし/1977年福岡県生まれ。2002年専門学校職藝学院卒業。オークヴィレッジの建築に惹かれ、同年に大工として入社。現在まで17年間勤務。おもな施工担当作品=「木組みの家」(14)、「明治神宮CAFÉ『社のテラス』」(16)、「杉の井 穂濤 離れ」(17)など。



上野英二  
Ueno Eiji

うえの・えいじ/1959年岐阜県生まれ。83年愛知工業大学建築学科卒業。85年オークヴィレッジ入社。設計施工の体制を確立し、建築部門を始動させる。同社代表取締役社長。2018年の「第13回木の建築賞」(木の住宅賞、「木組みの家」)など多数受賞。

# ふたつの茶室を、二世代でつくる

親方

向田八司

大工(工場長) 田内徹郎

棟梁

岸本耕



作品

「島津山の茶室」

施工

鯰組

岸本耕さんは、棟梁・田中文男さんのもとで修業をし、自ら大工集団「鯰組」を立ち上げた。設計施工を一貫して行うかつての大工の姿を再考し、現代にも通じる、大工組織のあり方を問いつづけている。

聞き手・まとめ／大井隆弘 写真／傍島利浩

Special Feature

Passing  
on  
craftsmen's  
skills

Case Study

03

「島津山の茶室」の2階小間にて、鯰組の3人。小間は親方の向田八司さんが担当。三疊台目の相伴席付き。床柱は赤松、床框は杉磨き丸太。

# お茶でつながる 大工と施主

—— 依頼の経緯から教えてください。

棟梁・岸本耕 お施主さんは、茶道の勉強会の稽古仲間です。世間話をしていられるうちに、ご自宅脇に茶室をつくる依頼をいただきました。お施主さんは裏千家、私は遠州流なのですが、流派を超えた勉強会があったので知り合いました。

話は少しさかのぼりますが、私は大学で建築を学んだ後、田中文男棟梁のもとで修業しました。棟梁は、文化財指定を受ける社寺の修理工事も数多く手がけていましたし、古文書も読んだので「学者大工」などと呼ばれていました。建築業界では有名な人ですね。ただ、私には独立後すぐに社寺を手がけるチャンスはありませんし、都会で仕事をつづけるなら茶室もできなければいけないと考え、茶道教室に通うことにしました。これがそもそもの端緒ですね。じつは鯉組にスカウトした向田もその教室の生徒なんです。



Special Feature

Passing on  
craftsmen's  
skills

Case Study

03

茶室(こと)に担当を決め、最初から最後まで取り組むことで、納まりに整合性がとれます。

ていました。その教室の開催場所は、私が担当させていただいた茶室で、完成後に一期生で入りました。だから岸本の先輩です(笑)。

—— ふたつの出会いがこの茶室を生み出したんですね。外観がよく似ていますが、住宅も鯉組ですか。

岸本 いえいえ、住宅は別なんです。住宅の南側の土地が売りに出た際に購入され、新しく建てたのがこの茶室です。外観が似ているのはお施主さんのご希望で、あまっていた外壁タイルを頼りに同じものを探しました。地下1階、地上2階の建物なので、茶室といわれてもびんとこない人も多いと思います。いろいろなタイプの席が複合した都会版の茶室だと思っています。

—— プランや構造はどうなっていますか。4室ありますね。

岸本 そうですね。1階に客席と立礼席、2階に小間、広間があります。たとえば、



写真上/小間の相伴席に掛けられた下地窓。小間と相伴席との境の敷居は、取りはずして裏返すことで、四畳台目として使用することも可能。下/腰掛待合。沓脱ぎの手前の床板は、名栗の加工が施されている。

小間を見てください。客は待合を経てにじりぐち開口から入りますが、主人はお茶をたてるのに茶道口から、料理は給仕口から運び入れます。そうした表裏の動線が、4室すべてに備わっているわけです。細長い敷地です。で、両端に茶室を設け、表裏の動線を厨房や手洗いで分けることにしました。構造は地下1階がRC造、地上階はプレカットで軸組をつくっています。

## 現代の技術を 取り込み 伝統の技術も残す

—— 構造はプレカットなんですか。

岸本 普段から使っていますよ。技術の継承は私たちが重視していますが、全部そうすべきだとは考えていません。現代の技術を上手に取り込みながら、伝統の技術を残

すことが大切だと思います。師匠の田中棟梁も、機械化できる箇所を手仕事で進めると、すごく怒りました。軸組はプレカットでよいですが、小間は柱も細いし曲がっている。手仕事以外考えられませんか。そういう意味で、茶室は現代の技術と伝統の技術がうまくすみ分けられる建築タイプなのかもしれません。

—— なるほど、だから茶室に取り組んでいる。技術の継承という意味では、役割分担はどうでしたか。

岸本 まず私がお施主さんとやりとりをして最初のスケッチを描き、ほかのスタッフがCADで図面にしました。そのうえで、小間は向田、広間は田内が手がけています。小間は、材料の形が複雑で取合せも難しいですからね。高い技術が求められる。そのため、経験のある向田が担当しています。

施工は、ほか2名の若手が加わり合計4名の自社大工が同時に進めています。工期短縮もありますが、担当を決めたほうが各部の納まりに整合性がとれますからね。じつは、田内は今回初めて最初から最後までひとりで続間座敷に取り組んだんです。

## 技術の継承は 見極め、見守る

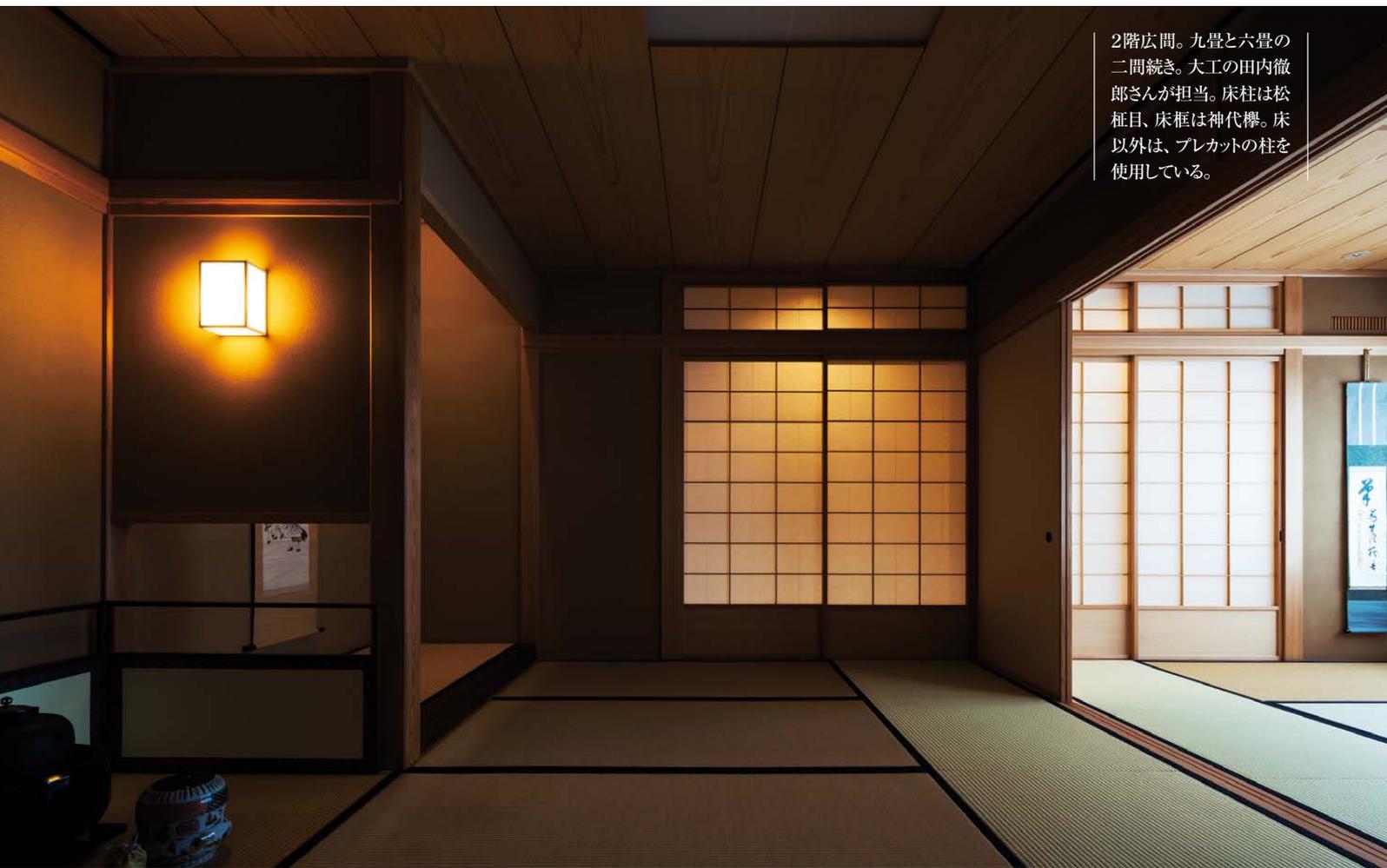
—— 田内さん、とくに苦勞したところはありますか。

大工(工場長)・田内徹郎 初めてのことで、全部苦勞しました(笑)。現代のお茶室ですから、エアコンも入ります。斜線制限などで階高が限定されて、懐もあまりとれ



小間へつづく路地。右につくばい、左に躰口。都市型茶室で、外光を取り入れることが難しいため、間接照明などを用いて空間を演出している。

2階広間。九畳と六畳の二間続き。大工の田内徹郎さんが担当。床柱は松柂目、床框は神代樺。床以外は、プレカットの柱を使用している。



ません。設備との取り合いや段取りなど、見えないところも含めて苦勞の連続でした。ただ、同じ現場ですので、親方の向田が見に来てくれましたし、休憩時間にも質問して教えてもらいました。原寸図は私が描いたのですが、その際も相談にのってもらいました。ただ、全部教えてくれるわけではなく、ニュアンスだけ教えてくれる場合もあれば、知らんぷりされることもあります。わざとだと思いますが……。

向田 昔は自分もそうでしたね。先輩に質問しても「なんだ、聞いて損した」なんてことも多々ありました(笑)。やはりものづくりは自分で経験しないと理解できない部分が多い。聞いてわかった気になっては困ります。

この現場をやりきったことで、田内は一度むけたなという印象をもつていきますし、自信もついたのでしよう。ペアで進めるより成長を感じられましたね。

——ところで、今日は大工道具もご持参いただきましたが、銀色のコンパスのようなものがありますか。

向田 どうぞご覧ください。これはひかり付けをする道具ですね。ひかり付けとは、丸太同士を組む際に、相互を隙間なく削りあわせる技術で、難度の高いものです。自分なりの方法や手に合うよう、板金屋さんにつくってもらいました。

しかし、そのさじ加減がわかるには経験が必要です。技術の概要、道具の形式や依頼先などはすぐ教えられますが、腕や道具



ひかり付けの道具(写真左)。

は経験しながら自分で試行錯誤するしかありません。もちろん、的はずれなことがあるかもしれませんが、伝達可能なことと、そうでないことを見極め、大きく道がはずれないよう見守っていきたく考えています。

——会社としてはどうでしょうか。

岸本 そうですね。毎回まったく異なる仕事では、なかなか手が成長しない。したがって、建築のタイプもある程度は限定する必要があると思います。しかし、毎回同じでは飽きてしまう人もいるでしょうから、向上心を刺激するような仕事をとってきたことは考えています。これまで鯨組では10

大工が仕事を受けて、  
大工が完成させる、  
組織のあり方を  
考えています。

軒ほど茶室を手がけていますが、いずれも内装です。そろそろ屋根付きの茶室もやりたいですね。

向田・田内 それはぜひやりたいですね(笑)。

## 大工の力を結集し 社会に仕掛ける

——会社組織の側からも育成についてお聞きしたいと思います。鯨組では大工が社員として働かれていますね。

岸本 建設業界では、社会保険を浸透させる流れが強くなっていますね。固い話にな



1階立礼席。立礼卓はガラス製のモダンなもの。椅子座になれた日本人や外国人が来ることを想定して設計。床柱は槐（エンジュ）。



Special Feature

Passing on craftsmen's skills

Case Study

03

が必要だと思っています。  
田内 私は向田が上において、若手ふたりの大工が下にいます。会社としては中堅です。若手の頃は意識しませんでした。今は親方から伝えられた技術を、どうやって若手



1階客席。当初は店舗にすることも考え、厨房から畳敷きの机に直接、料理が運べるプラン。机の下が掘り込んであり、こちらも外国人などにやさしい。

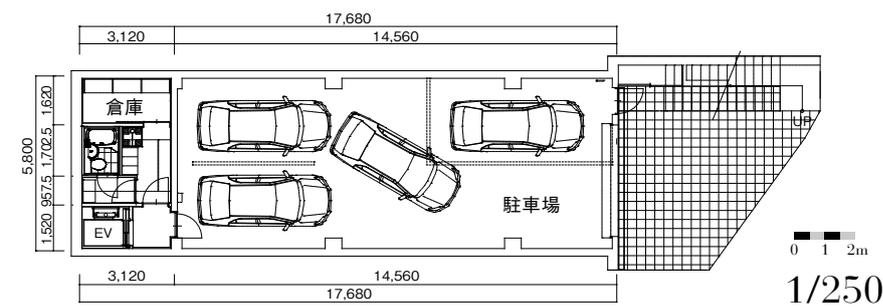
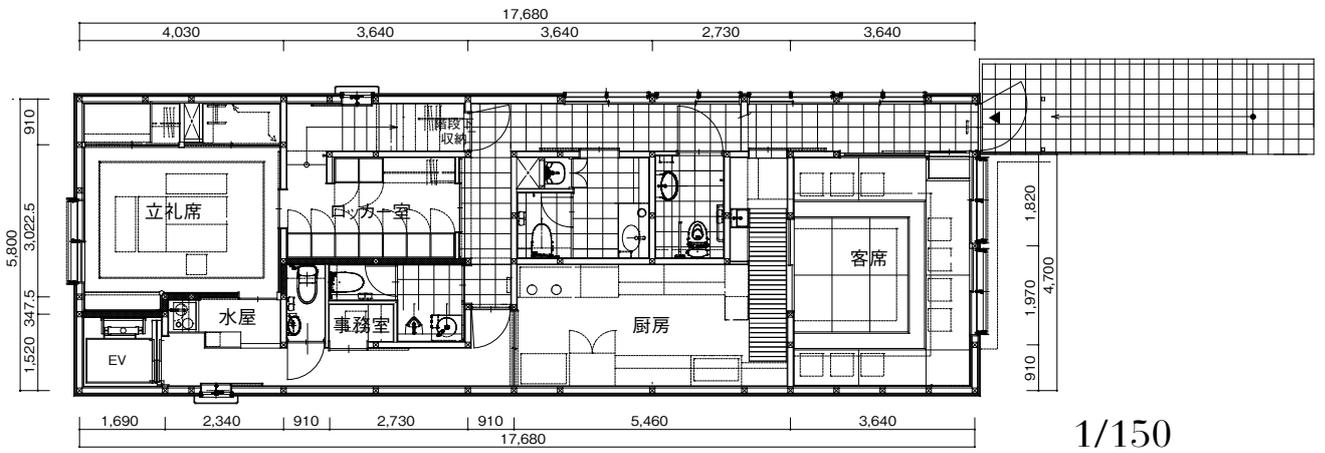
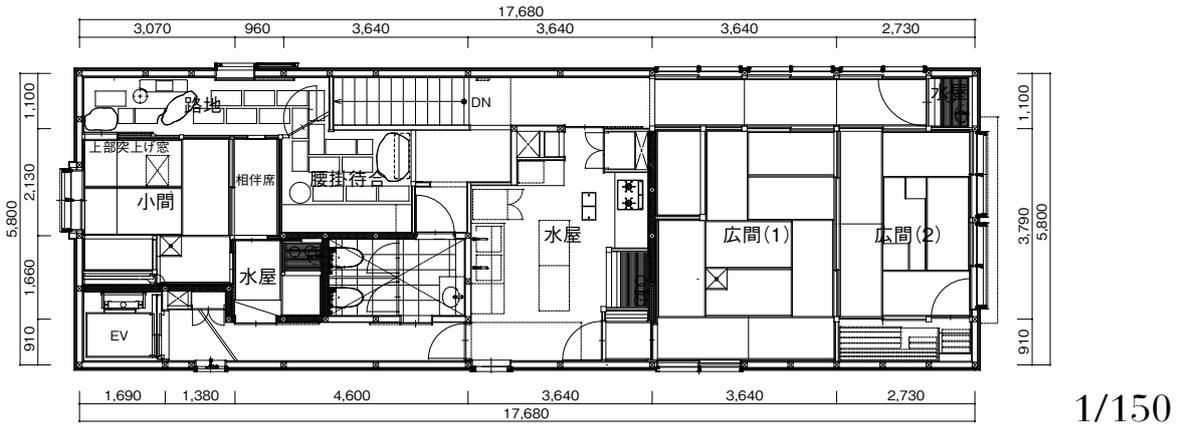
とは困難でしょう。組織のあり方についてはずっと考えつづけていますが、やはり職人の会社

りますが、東京で大工さんを外注すると日当の相場は2万円ほどです。これに保険を上乗せすることは難しいケースが多いのではないのでしょうか。もちろん仕事やもうけがあることは前提ですが、ちゃんと社員として働いてもらいたい保険もつける。育成も同じで、日当で雇った若い大工を育成するこ

に伝えていけばよいか、試行錯誤の日々です。ただ、会社内に各世代の人間がいることは絶対に必要なことだと思います。  
岸本 そう言ってもらえるとありがたいですね。当初私は、設計から大工仕事までひとりでできることが大切だと思っていました。かつての大工の職能が頭にあったからです。そのため、「設計から大工まで」をキヤッチコピーにしてみました。  
しかし、そのやり方では、社員が増えてくるとどうしても効率が悪くなるし、技術を若手に伝えるのも遅くなってしまう。昔のように丁稚奉公で長期間必ず在籍してくれるとは限りませんからね。そのため現在、設計は監修のみ、設計の実務は信用できる会社に委託することで、社員には大工仕事に集中して取り組んでもらっています。会社のキヤッチコピーも「大工」に変えました。  
——大工を主軸にし、あるべき姿を問いつづけるということですか。  
岸本 そういうことです。設計者が仕事を受けて施工者が完成させるという一般的な流れに対し、大工が受けて大工が完成させる形を提案したい。近代化の過程で変容した建物をつくる行為を、現代社会に適合させつつ大工を主軸に再構築しようという試みです。鯨組としてその一例を示しながら、社会に仕掛けているつもりです。  
——田中文男さんは、一人前の棟梁のなかでも、社会に対して仕掛けられる人間が最も優秀なんだと述べられていたことを思い出しました。

# 平面図

0 1 2m



田内徹郎  
Tauchi Tetsuro

たうち・てつろう／1979年愛媛県生まれ。2006年芝浦工業大学大学院理工学研究科建設工学専攻修了。07～12年風基建設。12年～鮎組。おもな施工担当作品＝「阿佐ヶ谷の家」(14)、「パーラー江古田(改修)」(15)。



向田八司  
Mukaida Hatsushi

むかいだ・はつし／1955年岩手県生まれ。74年盛岡専修職業訓練校建築科卒業。74～77年佐藤秀工務店。77～92年水澤工務店。92～2013年藤森工務店。13年～鮎組。おもな施工担当作品＝「高輪の茶室(改修)」(15)、「逗子の家(旧正力松太郎邸改修)」(16)。



岸本 耕  
Kishimoto Ko

きしもと・こう／1978年神奈川県生まれ。2001年芝浦工業大学工学部建築学科を卒業。同年、棟梁・田中文男氏に師事するため、眞木工作所に入社。05年に独立し、吉川の鮎を設立。12年に建築部門を鮎組に改名。



住宅(奥)に合わせた茶室棟(手前)の外観。

## 「島津山の茶室」

### 組織概要

#### 株組

創業	2009年
社員	7人
大工	社員4人(うち親方1人)、 外部協力2人

2018年の施工棟数 5棟

大工の平均年齢 約40歳

(最年長:64歳、最年少:23歳)

おもな使用木材の産地 静岡県、奈良県など

加工場 東京都板橋区

### 建築概要

所在地	東京都品川区東五反田
主要用途	茶道教室、飲食店
設計	小疇友子建築設計事務所
構造設計	OZ.An/ 尾崎設計室一級建築士事務所
構造	木造(一部鉄筋コンクリート造)
施工	鯨組
階数	地下1階、地上2階
敷地面積	182.01㎡
建築面積	106.54㎡
延床面積	309.02㎡ (駐車場、エレベータを含む)
設計期間	2015年4月~11月
工事期間	2015年11月~2016年11月

### おもな外部仕上げ

屋根	ガルバリウム鋼板 葺き
外壁	タイル仕上げ
開口部	防火戸アルミサッシ
外構	外部床タイル仕上げ、 外周部砂利敷き

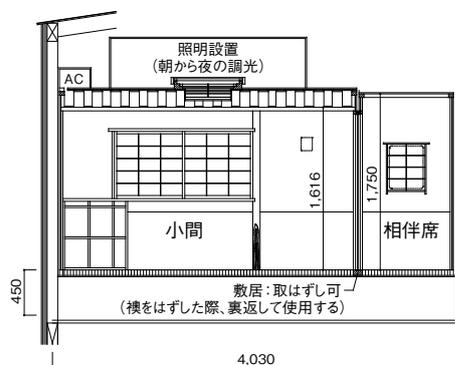
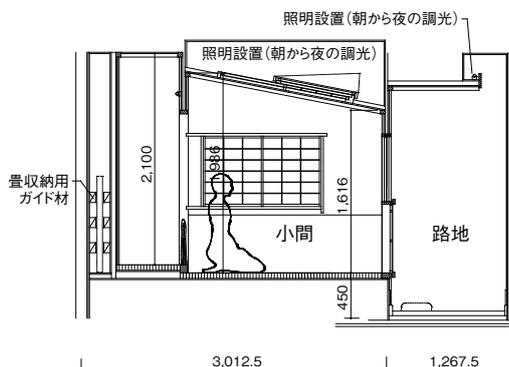
### おもな内部仕上げ

客席(懐石)	
床	新畳(縁無 目積表)
壁	腰壁:エコカラット、上部:布クロス
天井	布クロス
立礼席	
床	パイン板目無垢フローリング
壁	エコカラット
天井	布クロス
広間	
床	新畳(綿縁)
壁	京壁本聚楽
天井	杉中空厚突板目透し天井
小間	
床	新畳(綿縁)、 床の間 新畳(綿縁)
壁	京壁鼠土
天井	杉赤身へぎ板、点前座ゴギョウ

## 小間断面図

0 0.5 1m

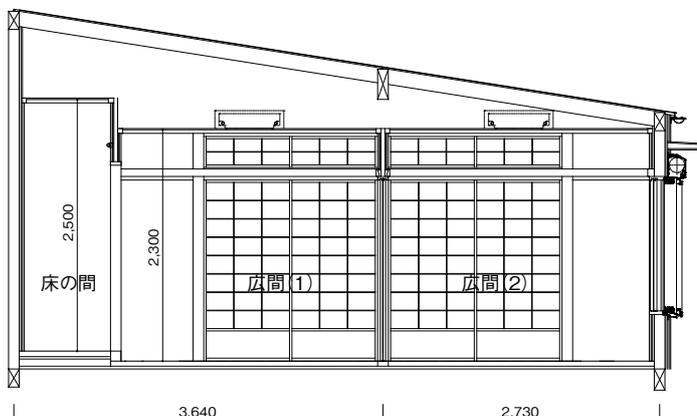
1/75



## 広間断面図

0 0.5 1m

1/75



# あえて大工のディテールだらけ



建築家

竹原義二

作品

「大津百町スタジオ」

設計

竹原義二／無有建築工房

施工

木の家専門店 谷口工務店

30人もの自社大工をかかえる、滋賀拠点の谷口工務店。

大工技術をふんだんに生かした町家の改修で、

大津の街起こしにも貢献しているという。

建築家・竹原義二からの要求に対し、試行錯誤しながら、

自ら考え、見極められる、若手大工たちを育成中だ。

聞き手・まとめ／植林麻衣 写真／桑田瑞穂

Special Feature

Passing  
on  
craftsmen's  
skills

Case Study

04

「大津百町スタジオ」の1階土間に竹原義二さんと谷口工務店の松岡知哉さん。築90年の町家改修。通し貫を梁間方向に並べ、耐震補強を施した。

棟梁

松岡知哉

# 街の住まいは 大工が守る

— 2016年に滋賀・大津にオープンした谷口工務店の京滋支店「大津百町スタジオ」は、築90年の町家を改修すること自体が「大工技術を継承する」という目的をもったプロジェクトでした。その経緯についてお話しください。

**棟梁・松岡知哉** 谷口工務店は滋賀・竜王を拠点に、改築を含め年間約100棟を自社の設計施工で手がけています。京阪神のお客さまにもアクセスのよい場所に支店を出したいという計画があり、候補にあがったのが、大津駅の商店街にある町家です。

竹原先生には我が社主催の、学生を対象とした設計コンテストで審査員をつとめていただいているのですが、工務店として設計を依頼するのは初めてです。古建築に造詣の深い竹原先生においては、今回のプロジェクトは考えられませんでした。

**建築家・竹原義二** 大津は東海道五十三次の宿場町として栄えた歴史があります。この町家もかつては木賃宿で、その後、和菓



Special Feature

Passing on craftsmen's skills

Case Study

04



大工仕事の痕跡が  
数十年後にもわかるよう、  
加工・仕上げを徹底しました。

写真上/1階中庭に面した庇の垂木。新材1本ずつに丸鋸を使い、手仕事で表情をつけている。下/路地の既存柱は、根元が腐食していたため、若手大工たちが金輪継ぎを試みた。

子屋などに用途を変え、幾度か増改築を経験していました。雨漏りなどで構造の傷みもひどく、初めて谷口弘和社長と見に行つたときは、これを本当に改築するのかと目を疑つたほどでした。

— 新しく建てるほうが、早い状況であったにもかかわらず、あえて改修を選んだ理由はなぜでしょう。

**松岡** 我が社では自社大工を約30人擁しており、常用や手間受けが主流の現在では珍しい組織構成といえるでしょう。それは、谷口自身の出発点が大工で、町場の家を残していくのは大工しかない、という強い思いがあったこと。かつて大工は、雨漏りや困ったことがあればすぐに駆けつけ、家を守ってきました。こうした大工仕事を

通じて、街の人に喜んでもらいたいという思いが、根っこにある会社なんです。

**竹原** 谷口社長が考える大工像というのは、町医者のような存在なんですね。この大津を谷口工務店の新しい拠点にする以上、昔ながらの街の建物を直すということは、技術の習得のみならず、街に入っていくうえでも意義があります。ぜひやるべきだ、と背中を押しました。

**松岡** 我が社のスタンダードはモダンな大壁。構造は隠し、扱うのもプレカット材が中心で、全工程を通じて手刻みを求められる機会はありませぬ。今回のような大工技術の結晶のような仕事には血が騒ぎました。

— 今回、現場で采配をふるることになった松岡さんは、なぜ大工を志したのですか。

## 大工技術の 真髄は 「考えること」

— 改築の概要についてお話しください。

**竹原** 見た目以上に損傷がひどく、足元はほぼ腐っており、建物も傾いていました。元の構成は京町家に近く、前庭の奥に中庭、そして住居部があったので、減築で創建当初の空間に戻しながら耐震補強を施し、かつ技術継承として、手刻みによる仕口・継手、ひかり付けなど、随所に大工の特技を生かすという方針です。

**松岡** 通し柱は蟻に喰われてボソボソでした。建物全体をジャッキアップして基礎をやり直し、足元が腐った柱には根継ぎを施しました。

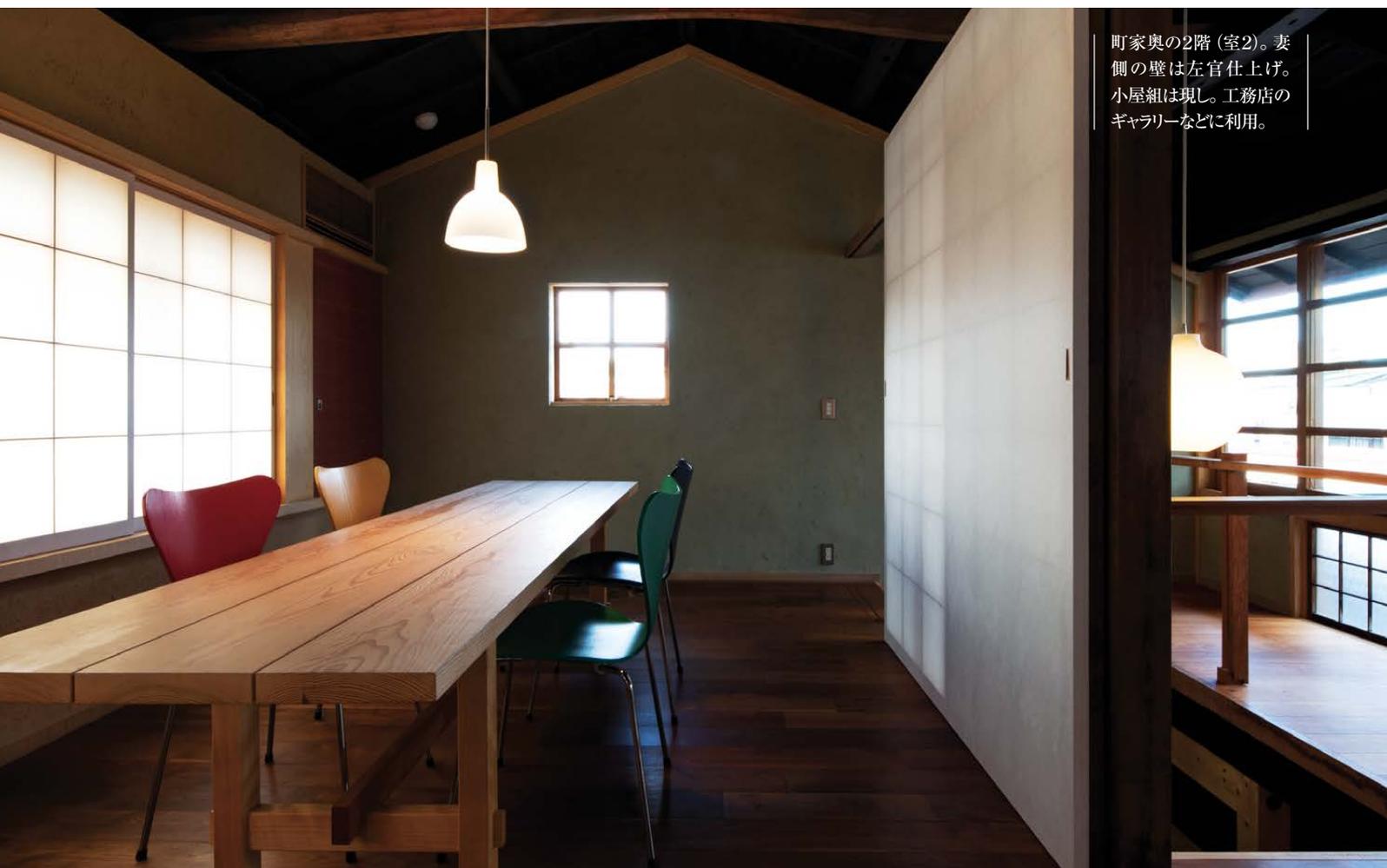
**竹原** 梁間方向は耐震要素が皆無で、構造家の下山聡さんのアイデアで、通し貫による構造壁を設置しました。日本の木造ならではの、やわらかく粘る耐震壁ですね。奥

**松岡** 僕は大学の建築学科出身で、設計志望で就職活動をしていました。ただ谷口工務店の会社説明会で、大工の先輩が身体を動かしているのを見ていたら、設計よりもおもしろそう。今は7年目で棟梁として、若い大工3〜4人のチームで現場をまわっています。

1階路地とカフェ。奥に中庭。新旧の木材を対比させつつ、ひかり付け、通し貫といった大工技術をふんだんに使用。床は三和土にタイル貼り。



町家奥の2階(室2)。妻側の壁は左官仕上げ。小屋組は現し。工務店のギャラリーなどに利用。



の旧住居部は、梁断面が小さかったので新規の梁を2本架け、2階に水平な床レベルを設定しています。

——竹原さんの、大工さんへの要求はどのようなものでしたか。

竹原 今回の大工仕事の痕跡がわかるように、新旧を明確に対比させつつ、数十年後には、時間の流れがひとつになるように、材の加工・仕上げには徹底的にこだわりました。けれども最初は、その意図がなかなか伝わらなかったね(笑)。

松岡 普段の仕事では、古い梁は「汚れている」と隠すものでしたから。新設した梁も通常は機械仕上げのところを、竹原先生からは鋸目仕上げで、という指示が。ただその加減は、図面で示せるものではありません。実際にやっては「違う」と言われ、イメージに叶うまで文字通り、手探りで練り返します。すべてにおいて試行錯誤の連続でしたね。

竹原 中庭の庇の垂木もがんばったね。松岡 「きれいに仕上げず、ランダムな凹凸がほしい」とおっしゃられ、どうやったらできるのか、社内のみんなで額を寄せ合い議論しました。最終的には、通常は縦使いにする丸鋸を横になぞるようにして、泣きながら何百本と加工しました(笑)。

——谷口工務店の手がける住宅は大壁が主流ですが、今回学んだ「技術」はどのような生かされるとお考えですか。

竹原 大工技術は、木の扱いはさることながら、材料を吟味する「眼」が大事。その力がないとメーカーの既製品を組み合わせるだけに終始してしまいますから。さらに

「考える」という地力も必要です。たとえば通し貫の構造壁で、柱を貫通する貫がどのくらい壁から飛び出すべきか、見た目の美しさもあわせて考えてごらん、と言ったことがあったね。あれはどうだった？

松岡 僕らにしてみれば、それは建築家や構造家の仕事で、大工は図面どおりに施工すればいいじゃないか、と思うわけです。しかし次第に、先生が僕らに本当に求めていることがわかってきました。自分がつくっているものに対して問いつづけること。図面はただの指示図ではなく、そこから設計の意図を読み取ること。現場で建築家と感性を共有すること。振り返れば「考えること」を徹底的に促された機会でした。

——その「考えること」は、どのような場面で糧となつて現れるのでしょうか。

松岡 僕らには自社の仕事のやり方が身体に刻み込まれています。ひとつの方法しか知らないと、変則的な事態に面したときにお手上げになる可能性も。しかし多彩な技術や経験の蓄積をもつと、応用が利きます。竹原先生の木を現しにするデザインや、下山先生の木構造の考え方を取り入れる機会も増え、引き出しが増えてきました。

## 日本一の棟梁を育てたい

——「天津百町スタジオ」を契機に、谷口工務店・竹原さんの協働で「ホテル講」として7軒の宿泊施設が天津にオープンしましたね。

竹原 今後はいつそう既存ストックの活用

町家奥の1階(室1)より中庭を見る。階段の踏板は厚みが異なる。建具は既存のものや古材を利用。



が求められ、工務店の仕事としても改築が増えてくることでしょう。改築物件では臨機応変に対応できる大工の力量が問われま  
すから、工務店としては新たな展開もでき  
るのではないのでしょうか。

**松岡** 街の再生を目指した宿泊施設のみならず、ご近所からも、古い我が家を直してほしいとお声がけをいただいています。築100年近い家屋を直せる工務店は減ってきているので、他社が手がけない分野に活路を見出すという会社の戦略もあります。  
**竹原** 彼らは本気で、歴史ある大津の町場大工として根付こうと奮闘していますよ。  
「大津百町スタジ

オ」の現場中は、大工全員が毎月1回それぞれの現場に行く前に童王から大津に集合し、朝7時までに現場周辺までじつにきれいに掃除をしていたんです。仕事をする街に礼儀をつくす、という姿勢の現れでしょう。

**松岡** ちなみに掃除の後は現場が始まるまでは、竹原先生による勉強会も。先生のご自宅の大阪・豊中から、朝7時に大津まで

### 多彩な技術や

経験の蓄積をもつと、大工技術の応用が利きます。

来てもらうんです。時には現場の後にも勉強会を行ってくださいました。僕らも休日  
はレクチャーしてもらった日下部家住宅な  
どを実際に見に行きレポートを提出し、名  
建築に触れて目を養いました。

——竹原さんがそこまで尽力されたのは、なぜでしょう？

**竹原** この時代、社員大工をこれほど抱えるなど、なかなかできることではありません。しかも谷口社長は「日本一の棟梁を育てたい」と言うのです。僕のように棟梁と膝を突き合わせて建築をつくってきた人間には、無性に心に響くんですよ。手を貸さ

ないわけにはいかないじゃないですか。

——松岡さんは今回のプロジェクトを経て、どのように仕事に向き合っているのでしょうか。

**松岡** 前にも増して大工の仕事が楽しいです。今回で得た技術を糧に、ほかの現場を見ながら、こんな納め方や表現もできるんじゃないかと、思いを巡らせています(笑)。お客さまのご予算は超えないながらも、それ以上の仕事をするのも、うまい技術のひとつじゃないか、なんて自分なりに考えていますね。いずれにせよ、今回学んだことを後輩に教えるにしても、さらに咀嚼しなければいけない。教えることでさらに自分も成長できる循環がうれしいです。永遠に、勉強ですね。



Special Feature

Passing on craftsmen's skills

Case Study

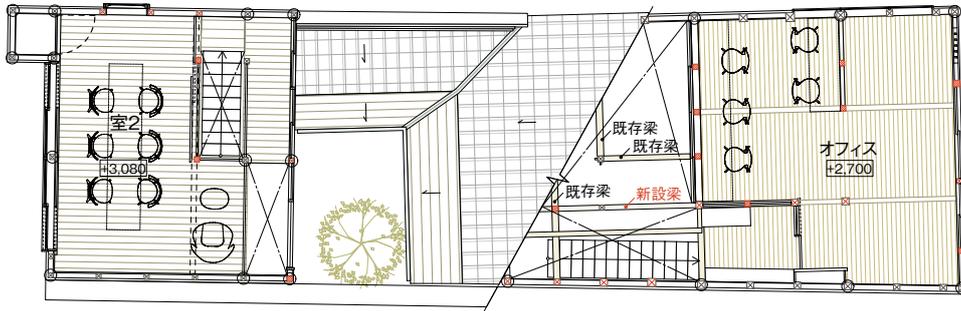
04

# 平面図

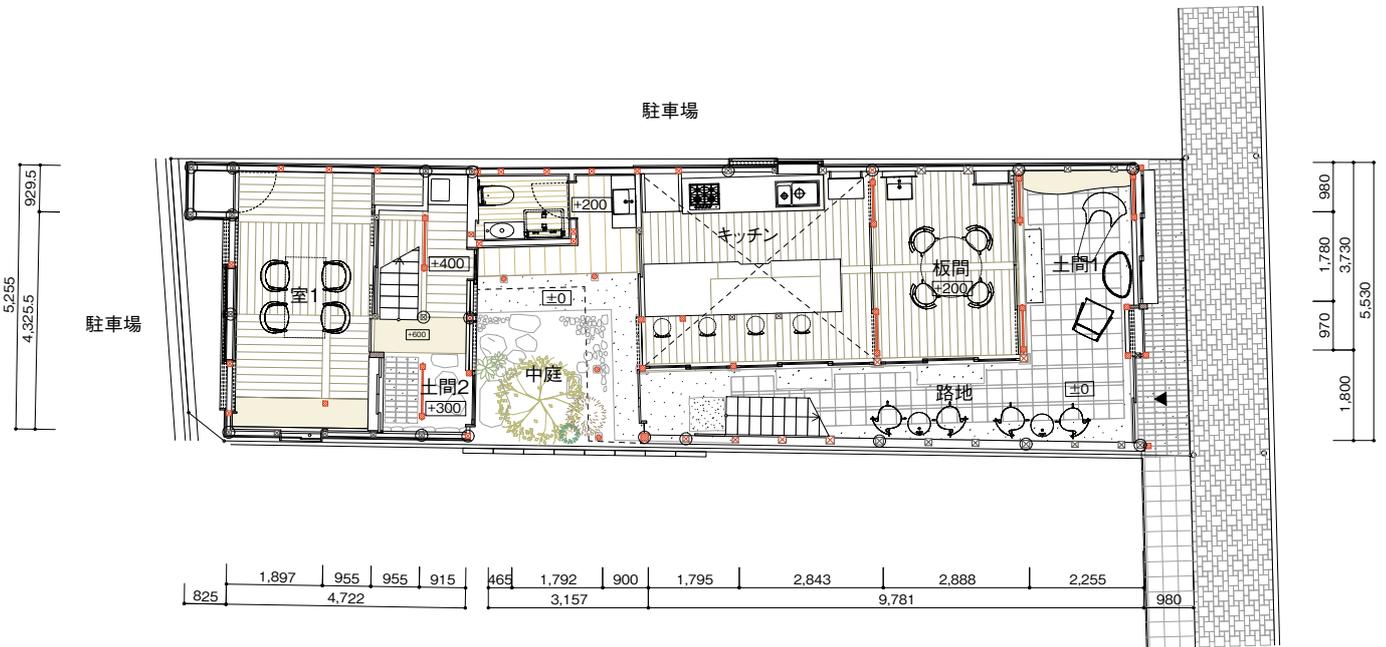


0 1 2m

1/150



## 2F



## 1F

- 凡例
- 既存柱
  - 新設柱 (化粧)
  - 通し貫構法
  - 新設柱 (非化粧)
  - 根継ぎ柱

### 施工風景

竹原さんが  
若手大工を  
直接指導

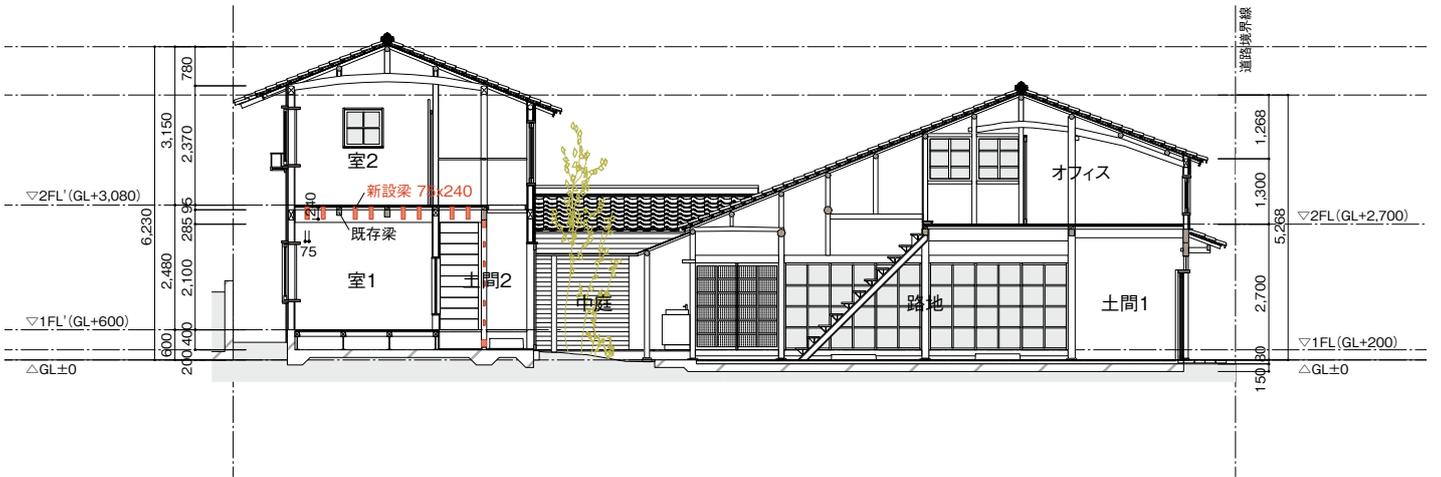


谷口社長からの要望もあり、若手大工に木の見方、扱い方を伝える勉強会を竹原さんが開催。図面どおりにつくるだけでは得がたい、技術を応用して考える力を鍛え上げた。  
写真提供/谷口工務店

# 断面図

0 1 2m

1/150



## 「大津百町スタジオ」

大津駅前の商店街に面した東側外観。赤いアーケードが連続する。

### 組織概要

株木の家専門店 谷口工務店

創業 1995年

社員 84人

大工 社員42人(うち棟梁13人)、

外部協力4人

2018年の施工棟数 新築44棟、ほか改築多数

大工の平均年齢 約30歳

(最年長:77歳、最年少:20歳)

おもな使用木材の産地 岐阜県東濃など

加工場 滋賀県蒲生郡竜王町

### 建築概要

所在地 滋賀県大津市御幸町1-56

主要用途 事務所、カフェ

建主 木の家専門店 谷口工務店

代表取締役谷口弘和

設計 竹原義二／無有建築工房

構造設計 下山建築設計室

構造 木造

施工 木の家専門店 谷口工務店

階数 地上2階

敷地面積 113.88㎡

建築面積 88.47㎡

延床面積 106.47㎡

設計期間 2016年2月～3月

工事期間 2016年2月～7月

### おもな外部仕上げ

屋根 既存棧瓦、紋付棧瓦葺き、黒色銅板一文字葺き

外壁 土佐漆喰塗り、レッドシダーベベルサイディング、  
ベイスギ板張り、焼スギ下見板張り、  
ジョリパットエンシェントブリック仕上げ、  
ガルバリウムスパンダレル

開口部 木製建具(既存利用、古建具、製作)

外構 庵治石、植栽

### おもな内部仕上げ

土間1・路地

床 三和土、タイル貼り

壁 土壁補修

天井 梁現し、既存天井板のうえAEP

ギャラリー

床 ヨーロピアンオークフローリングスプーンカット

壁 土壁補修

天井 梁現し、既存天井板のうえAEP

室1

床 ミャンマーチークフローリング

壁 薩摩中霧島壁

天井 針葉樹合板のうえAEP

室2

床 ウォルナットフローリング

壁 薩摩中霧島壁

天井 既存野地板、ニューわびすけ塗



竹原義二  
Takehara Yoshiji

たけはら・よしじ／1948年徳島県生まれ。建築家石井修に師事後、78年無有建築工房設立。2000～13年大阪市立大学大学院生活科学研究科教授。15～19年摂南大学理工学部建築学科教授。日本建築学会賞教育賞、日本建築学会賞著作賞、村野藤吾賞、都市住宅学会業績賞、こども環境学会賞など多数受賞。おもな作品=「101番目の家」(02)、「はじまりの美術館」(14)など。



松岡知哉  
Matsuoka Tomoya

まつおか・ともや／1989年大阪府生まれ。2012年大阪工業大学建築学科卒業。大学では建築を学んでいたが、大工育成に力を入れる谷口工務店に興味をもち、12年に入社。おもな施工担当作品=「K邸」(18)、「S社」(18)、「U邸」(19)など。

# 竹原義二との構造設計術

大工の手仕事を設計する



構造家

## 下山 聡

しもやま・さとる／1963年三重県生まれ。86年埼玉大学工学部建設工学科卒業。梓設計勤務を経て、96年下山建築設計室設立。2007年より竹原義二の構造設計、計70棟で協働。14年、関西大学非常勤講師。吉岡賞、藤井厚二賞受賞。



「大津百町スタジオ」  
梁間方向の耐震のため、通し貫による構造壁を設置（28／35ページ）。貫が柱を貫通し、込枠で固定されることで、部材同士がめり込み、粘り強さが保たれる。

# +1

Shimoyama Satoru

構造家の下山聡さんは、木のしなやかな粘りを生かした構造設計を得意とする。そのためには、大工が刻んだ継手や仕口が欠かせないという。竹原義二さんとのコラボレーションを振り返り、大工技術を生かす構造のあり方を聞いた。

取材：文／植林麻衣 写真／桑田瑞穂

「ほんまもん」——竹原さんは、自身の建築の目指すところをこう表す。その視座が意味するところは何か。10余年にわたり無有建築工房の構造設計を手がけてきた下山聡さんは、「空間の骨格がプランと整合性があり、無駄なく率直かつ合理的で、意匠としても成立しているということ」と語る。だから下山さんが稀に、「構造家としてちょっと色気を出した」提案をしても、竹原さんは見向きもしない。しかしその「ほんまもん」の萌芽がのぞく提案を示すと、目を輝かせ身をのり出してくる。そんなふたりの協働を支えるのが、大工という存在だ。

## 建物に宿る大工の知恵

木構造の要となるのが、接合部だ。木造は材を切り欠いて組み合わせる以上、材の強度が元より増すことはない。割り箸に傷が入れば、ぼきりと折れるようなもので、木造において接合部は弱点なのだ。したがって下山さんはその弱点をいかに分散配置させるかということに尽力する。「大工さんもそう言います。木造の極意は、仕口や継手などの接合部にある、と」

「大津百町スタジオ」にもその極意は見出される。現代なら柱に梁を四方差しにするところを、ここ

# 「あけぼの学園南楓亭」

2007年、大阪府豊中市

## 2本の「合わせ柱」と 「合わせ梁」で ツリーハウスをつくる

ツリーハウスのような園舎を計画したい。1階は開放的に、2階はワンルームとするため、2本の「合わせ柱」、2本の「合わせ梁」を組むフレームとした。柱梁は相欠きにしてめり込みを生かすことで、片方を欠くより粘り強くなる。しかし、相欠きでは、木の組む順序に配慮が必要。竹原さん、下山さん、棟梁たちの協働により、モックアップを手仕事で組みながら検討を行った。



外観。開放性のあるピロティ。1階は屋根のある遊び場になっている。  
写真/無有建築工房



2階内観。「合わせ柱」が頂部に到達し、挟んだ梁で屋根を支えている。  
写真/無有建築工房



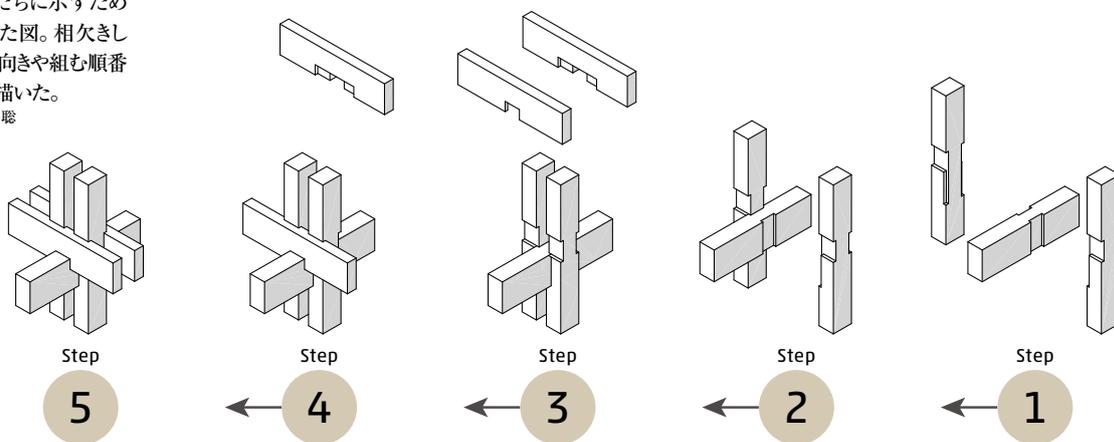
通しの「合わせ柱」と「合わせ梁」を組み上げた様子。  
写真/下山聡



原寸大のモックアップで、下山さんが考えた建て方手順を大工が確認。  
写真/下山聡

下山さんが「合わせ柱」「合わせ梁」の建方手順を、大工たちに示すために作成した図。相欠きした部材の向きや組む順番を簡潔に描いた。  
提供/下山聡

### 「合わせ柱」と「合わせ梁」建方手順



初めの協働となる「あけぼの学園南楓亭」はツリーハウスのような2階建ての木造園舎だ。木立のように柱を立て間仕切りのないワンルームを、との竹原さんの構想に、

また耐震補強では、梁間方向が脆弱なため、現行法規で推奨する筋かいや合板・金物で固める方向ではなく、建物の歴史に見合った伝統的な通し貫による耐震壁を設置した。柱間に通し貫を貫通させ、込栓を打ち込み固定する。地震などの外力が加わると、貫材がめり込み接合部がぐっと締まる。壁自体は変形するが、しなやかに粘って倒壊しない。木の性質を生かした構造、現代的な合理性、大工仕事への敬意——こうした下山さんの眼差しを、竹原さんは「無意識に感じている可能性を言語化し、アイデアを発展させてくれる」と評する。

## 木の粘りを引き出す架構

では相欠きにして柱を挟む梁の上端をずらした。柱の断面欠損を極力減らすためだ。現代の構造家が提唱する「弱点の分散配置」を、名もなき大工たちはあたりまえのものとしてやっていたのだ。「大津百町スタジオ」は下山さん・若い大工ともに昔の知恵を身体で会得する生きた教科書でもあった。



写真/絹巻豊

2011年、群馬県高崎市

# 「梅の里保育園」

## 「キ」の字型ユニットの 組み合わせで 一体的な空間をつくる

狭小地での保育園の計画。小さな面積にさまざまな必要な部屋をつくるため、自由な位置に間仕切りを設置できるフレームが必要だった。下山さんは「キ」の字型に合わせ柱と梁を組み合わせるユニットを提案。そのユニットを交互に直交させて組むことで、柱から独立した位置に間仕切りを設置することが可能。この相欠きの加工にも大工の手仕事が生きている。



写真/絹巻豊

写真右/「キ」の字型ユニットをクレーンで吊り上げて施工。左/「キ」の字型を交互に組むことでフレームができ、柱から離れた位置に間仕切りを設置できる。

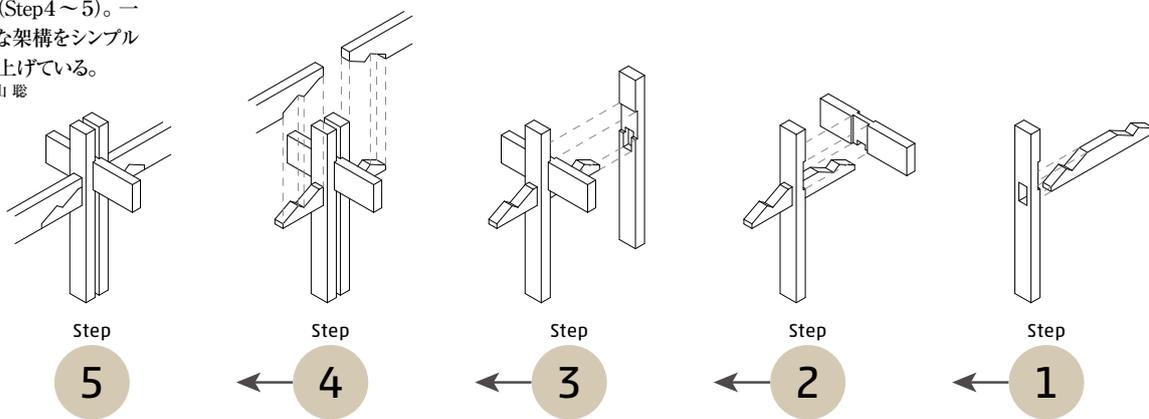


写真/下山聡

「合わせ柱」と手刻みの梁を組む (Step1~3)。それをさらに交互に直交させる (Step4~5)。一見複雑な架構をシンプルにまとめ上げている。

提供/下山聡

### 「キ」の字型ユニット建方手順



下山さんは隙間をあけた2本の柱と、2階床レベルからの片持ち柱とすることで応えた。

「梅の里保育園」でも間仕切りのない一室空間を実現するため、梁を2本の柱で挟んだ「キ」の字型の部材ユニットを製作。工場建築でH型鋼柱を交互に90度回転させ、強軸と弱軸のバランスをとるアイデアから、ユニットを配置した。「牛田の家」では家族がひとつ屋根の下で集えるよう、無柱空間にギャンブレル屋根をかけるべく2本の柱で登り梁を挟み、その登り梁を2本の方杖が挟む構成に。

共通するのは、部材芯をずらすことで互いの欠損を抑えながら部材同士のみり込みを生かし、全体で粘る架構としていることだ。そして透かして合わせた柱・梁。竹原さん特有の、力強くも軽やかな透けのある空間を実現している。

粘りのある架構のために、大工の手による継手・仕口の加工は欠かせない。また施工現場では、強度も寸法も指定どおりに納入された梁が、担ぐと重さが異なるという点も。見た目に変わらない材をどう配するとバランスのよい架構になるか。手刻みができる大工は、その「木配り」の感覚が身体に刻み込まれている。プレカット技術は日進月歩で今や3Dで複雑な仕口が加工できる時代だ。ただし道具は道具。合理化は図つても

# 「牛田の家」



写真/絹巻豊

2016年、広島県広島市

## トラスアーチを重ねて 全体でしなやかな 屋根をつくる

2階やロフトといった階層の異なる空間を一室にまとめあげた住宅。そのために、大きな屋根に覆われた無柱空間が求められた。下山さんは「キャンブレル屋根」の形式で、トラス状のアーチのユニットを組み合わせ、母屋材でつなげる方法を提案した。また、トラスの各接合部は部材芯をずらした相欠きとし、さらにユニットが連続することで構造が安定、全体としてしなやかで強靱な構造体となった。



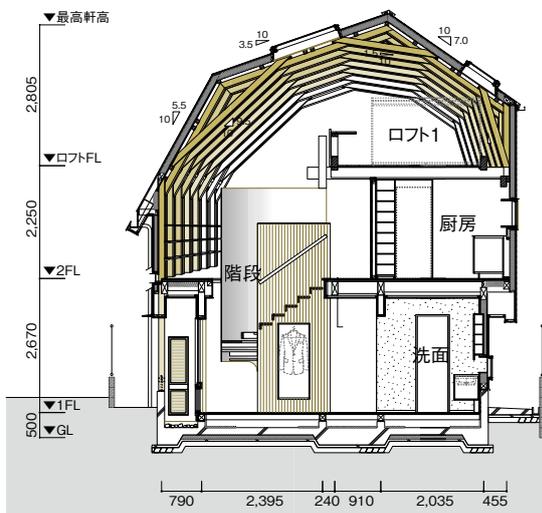
トラス状アーチでできたユニット。1ユニットずつクレーンで運ぶ。  
写真/下山聡



2階・ロフト内観。構造が現しの一室空間で構成される。  
写真/絹巻豊



ユニットを並列させ、母屋材で固める。屋根全体として構造が成り立つ。  
写真/下山聡



1/150

## 断面図

大きな「キャンブレル屋根」の下に、入れ子状に各部屋を構成。トラスアーチの架構により、2階やロフトの一室空間化が実現した。  
提供/無有建築工房

## 図面と実寸、 ふたつの世界の溝

設計者が高性能の加工機に任せて図面をおろそかにしてはならないし、大工の適材適所・臨機応変な勘所は現場からなくてはならない、と下山さんは考える。

下山さんの構造図はシンプルかつ丁寧で、建方の段取りまで指示されている。大工と現場で議論するためだ。「難しいよ」と言われたら全員で徹底的に話しあう。棟梁のみならず若手も交えるのは、次世代に技術を継承するための。

なぜ、議論が必要なのか。それは、手刻みの経験を積んだ大工にしかわかりえない地平があるからだ。たとえば鋸目を残すか否かで仕口の強度と剛性が変わってくるのが木である。構造図上で展開される形と、1/1の「実寸」の世界にはいかんともしがたい溝がある。それを埋めるのが大工という存在だ。下山さんが彼らに敬意を表する理由がここにある。

その下山さんに、「うれしいことは？」と尋ねると、打ち合わせ時に大工から「こんな組み方しても大丈夫か」と疑問を呈されながらも、現場で「ほんまや、できる！」と声があがるときだとか。「大工さんから学んだ恩返しができただよ」と、顔をほころばせた。

世界遺産の街にある夢ホテル

オーストリアで人口がウィーンに次ぐ第二の都市グラーツ。

市内を流れるムーア川と山上の要塞シユロスベルクを中心にした美しい街。かつてハプスブルク家の居城があった。ナポレオン軍も侵攻している。

あの巨大インゲンチャクかナマコが中世の街を襲っているかのようなピーター・クックとコリン・フルニエによる現代建築「クンストハウス・グラーツ」(\*1)はここにある。当時「浮かぶシャボン玉」とか「友好的エイリアン」ともいわれたそうだが、私にも「巨大ナマコ」には見えなかった。残念ながら外装がちよっと汚れてしまったので、みすばらしく見える。

そのすぐ前のムーア川の真ん中に、こちらはカフェもある透明ガラス張りのもうひとつのナマコ「ムーアインゼル」(\*2)がある。鉄骨ががちりつくつてあるとはいえず、その日は急流に流されそうであった。

どちらもいまだに評価が分かれる。旧市街の中心部は世界遺産に指定されている。市庁舎や美しいファサードの古い建物が軒を連ねる見所をゆつくりと巡る。16世紀に建てられた州庁舎ラントハウスの中庭なども。ハウプト広場中央にはこのホテルの名にもなったヨハン大公の銅像がある。

街のシンボル、シユロスベルクの丘にある時計塔を目指す。針が1本しかなかったそうだが、今は短針が「分」を指している。山肌に張り付いたような階段もおもしろいが、エレベーターがない。洞窟が昇降路になっていてガラス張りの「かご」はまるでテーマパークだが、こちらは本物。



古い州庁舎の中庭。

このようにグラーツは新旧の建築がコンパクトに危うく混在している街で、懐の深さはいいのだが、これから前衛建築が古くなるとどうなるのか、いささか心配でもある。

このホテルはダウンタウンにあり、路面電車に面している。1階はガラスのスカイライトがある明るい温室のような中庭をアトリウム型のレストランにしている。それを巡る4層の通路にはたくさんの植物。

宿泊した部屋は2ベイを使ったスイートで、部屋の界壁に穴をあけたと思われる。バスルームにはバスタブとシャワーユニットが入っている。身体をあたためるバスタブと身体を洗うシャワーとは本来用途が異なる。バスタブでシャワーを使うのはバスタームが狭いからで、バスタブにシャワーカーテンをつけてよしとするのはややつらい話だ。

冬は寒いのか入口ドアや窓は二重ドアや二重サッシ。全体を抑えた色調の好ましい部屋でよくいわれる「夢のようなホテル」と言っている。

「夢のようなホテル」と言っている。

\*1 クンストハウス・グラーツ…アーキグラム設立メンバーとして名を馳せたイギリスの建築家ピーター・クック(1936〜)と、コリン・フルニエ(1944〜)によるユニット「スペースラボ」の設計。国際設計競技であった。2003年建設。州立博物館の一部でもあり、美術のほかにいろいろな展示会などが行われている。「a+u」400号所収。

\*2 ムーアインゼル…2003年の文化首都を記念するためにつくられた「漂うガラスの島」。ニューヨークの芸術家ヴァイト・アコンチ(1940〜2017)のデザイン。カフェと半円形劇場がある。



あるアーチ開口  
上部の装飾。  
「眼」に見える。

うら・かずや/建築家・インテリアデザイナー。1947年北海道生まれ。70年東京藝術大学美術学部工芸科卒業。72年同大学大学院修士課程修了。同年日建設計入社。99〜2012年日建スペースデザイン代表取締役。現在、浦一也デザイン研究室主宰。著書に「旅はゲートルーム」(東京書籍・光文社)、「測つて描く旅」(彰国社)、「旅はゲートルームII」(光文社)がある。



居間の天井。和とも洋ともつかない  
ヘンなデザインだが、設計者は直線  
による分割をねら  
ている。

幾  
何  
学  
的  
数  
寄  
屋  
造

Ora Kijiro House

太田喜二郎邸 設計／藤井厚二



現代  
住宅  
併走

第四十五回

連載

文／藤森照信

Text by Fujimori Terunobu  
Photographs by Fugo Hitoshi

写真／普後 均

(藤井厚二のポートレイトを除く)

# 日

本近代住宅史上の名作は数あれど、不幸なことに多くは火事で焼けたり建て替えられたりして今はない。しかしたとえば藤井厚二の場合、ピークを画した「聴竹居」(1928)、『OTTO通信』(2000年冬号)が保存されているから当然取り上げたし、同時期の「八木邸」(1930)、『OTTO通信』(2018年新春号)も紹介してきた。

藤井厚二の(太田喜二郎邸)(1924)を探访しようと思いついたのは、八木邸と違いピークに至る4年前の作だからだ。これを見ると、ピークに至る過程がわかるにちがいない。

設計者と施主の関係から述べよう。京都大学建築学科教授の武田五一が、1920年、モダンな点描画で鳴らす太田喜二郎を、学生にスケッチなどを教える非常勤講師に招き、同年、藤井を常勤の講師として、というより自分の後任として呼び、ふ



たりは知り合う。その頃、太田は、点描画を含むヨーロッパの印象派の画法では日本の風景を包む湿りを帯びた光と暗がりが描き切れないことに気づき、試行を重ねていた。光も暗がりも日本のように湿度が高いと乾燥したヨーロッパのようににはシャープにならない。

大きくいえば、ヨーロッパの近代画法と日本の風景との溝を埋めるべく実績を重ねてきた画家と、ヨーロッパ由来のモダンな建築と日本の伝統的木造建築のあいだに橋を架けるべく試行錯誤を繰り返す建築家のふたりが意気投合する。

幸い太田側の記録により設計過程が次のように判明する。1923年4月2日、太田が設計を依頼。6月4日、太田、藤井邸を訪れ、相談。8月20日、太田、藤井、大工で相談。9月7日、藤井、現場の縄張をチェック。1924年1月、太田、新築邸へ転居。

# 2

2/入口のアプローチ。3/玄関を内側から見る。ドアの頑丈さに注目。4/四角いランプシェードは珍しい。



# 4

# 3



設計は5カ月、施工は3カ月で完成とわかる。施工期間が建築家設計にはあまりに早いのが、当時の木造住宅は設計さえ決まれば、たとえ藤井といえど伝統を踏まえた材料と工法による限り3カ月もあれば十分だったことがわかる。

訪れてみよう。道路の側から眺めるとありふれた京都の造りに見えるが、画室である無窓の棟の三ツ割の壁面と塀とで生まれるプロポーションはその気で見るといちじるしくモダンだし、左手和室の勾欄の、市松紋様とウイーンセセッションを一体化したようなデザインはいかにも藤井好み。

# 狭

い路地を通り玄関前に立つと、ドアの造りの頑丈さに気づく。伝統的和風住宅の玄関引き戸のあまりの防犯・防風上の無防備さへの反省を込めたと思われ、この考え方が聴竹居の土塗り大壁ドア玄関へと持ち込まれたのだら

う。狭い路地と閉鎖的空間をくぐり抜け、2枚目のドアを押して入ると、と書いてから気づいたが、現在、日本のドアは外開きが普通だが欧米は内開きが原則で、藤井がこの違いをどうしたかを見ると、欧米流を採用している。

ドアを押して中に踏み込むと一気に視界は開け、ひとつ空間の中に居間と食堂と裁縫場と仏壇が納まっているし、隣の台所から食堂へのサービスは引き戸ではなくハッチを通す。

台所と食堂が一体化するのは戦後の住宅公団以後になり、それ以前のモダンな住宅はハッチを使って台所と食堂をつないでいたが、あるいは藤井に始まる工夫なのか、それとも欧米住宅が元か。

一見して奇妙な空間といわなければならぬ。ひとつ空間の中に床と畳のふたつのレベル差があり、畳の奥には仏壇が納ま



併住現代  
走宅代 Fujii Koji × Fujimori Terunobu

5

5 / 居間を西から見る。畳敷きは裁縫と仏壇のため。6 / ウィンセセッションの木造デザイン。7 / 東側外観。高窓はアトリエ（新画室）の採光のため。

7

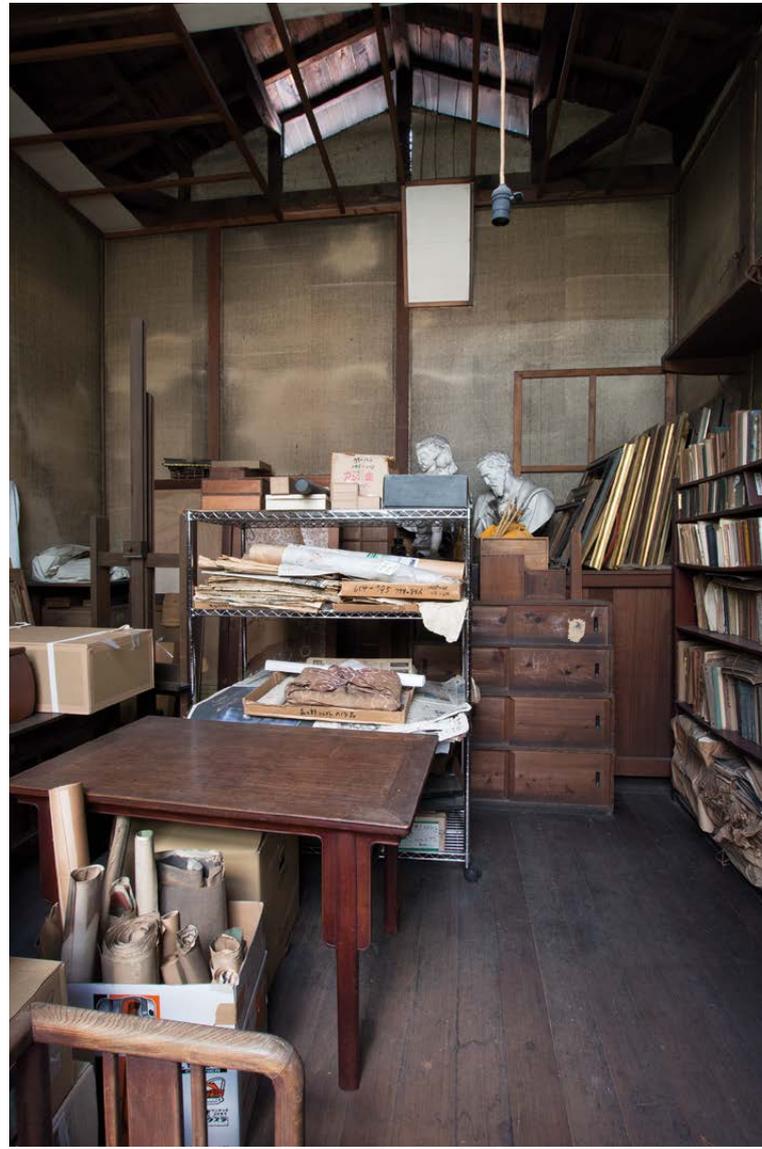
6





8 / アトリエ。天井に採光用のガラス。9 / 応接間。奥にアトリエ。10 / アトリエの高窓。

8



る。畳部分が図面では裁縫場と書かれていることから、ここで母が和裁をやり、仏に手を合わせるやうにわかる。畳の和と床の洋の溝を段差を付けて解消するやり方は、後に聴竹居で使われるし、以後いるんなモダンな住宅で採用されるようになるが、この起源も藤井かもしれない。

**奇** 妙な空間でありながら、目立つひとつの質がある。ここにはある。床面と天井面、そして壁面に注目すると、誰でもわかるように強く黒い線が各面の上をタテヨコに走る。空間という立体が垂直と水平の線により幾何学的に分割されている。とりわけ天井の格子状の線は強い。

このあまりに強い立体格子状分割は、空間を数学的秩序に従わせたいという設計者の意図を露わにする。完成度を犠牲にまで露わにする。

このことに気づくと、藤井と吉田五十八の本質的差が見えてくる。やや唐突に吉田を引き合いに出したが、日本の伝統的住宅の近代化という難問を考えるとき、藤井と吉田のふたりの名がまず挙がる。伝統の数寄屋造をベースにした藤井の聴竹居に一步遅れて、東京の吉田が数寄屋造の近代化に取り組み、1930年頃には「近代数寄屋」を確立しているからだ。もちろん吉田は和と洋の段差のこともハ



11

次の間（増築部分）。右手襖の向こうがアトリエ。

ツチのこともよく知り、実践しているし、空間の流動性や装飾性排除も藤井と同じ。藤井は西の京都大学の、吉田は東の東京藝術大学の教授として、伝統的木造住宅の近代化という方向では一致しながら、漂い出る雰囲気はどこが違うのはなぜなのか。その狭いが深い印象の差が何に由来するかわからないまま長いことふたりを一緒に話して話してきたが、（太田喜二郎邸）の居間を見てやっとなかった。ふたりの差は空間の背後に幾何学が隠れているかどうかの差にはほかならない。藤井は数寄屋造を幾何学という数学で洗い、数寄屋造にまとわりつく手技というかわいというか、そういう長い歴史のなかで染み込んだ垢のようなものを流し去った。だから、その後の木造モダニズムの源となることができた、と今は考えている。

# 太田喜二郎邸

Ota Kijiro House



大通りから見た全景。白壁の分割が伝統とは少し違っている。

## 建築概要

所在地	京都市上京区
主要用途	住宅+アトリエ
設計	藤井厚二
施工	井口捨吉
敷地面積	360.19㎡
建築面積	150.67㎡
延床面積	201.22㎡
階数	地上2階
構造	木造
竣工年	1924年、1929年(増築)、 1931年(増改築)
図面提供	京都大学大学院 工学研究科建築学専攻

## 藤井厚二

1888(明治21)年、広島県は福山の豪商の子として生まれ、東京大学卒業後、まだ社員数人の中小企業であった竹中工務店に初の建築家として入り、数年して京都大学に移る。伝統の数寄屋造とモダンデザインのあいだの通底性に気づき、1928(昭和3)年、代表作の「聴竹居」をつくる。ここから日本の“木造モダニズム”がスタートする。38(昭和13)年、49歳の働き盛りに没した。



Fuji Koji

## 藤森照信

建築家。建築史家。東京大学名誉教授。東京都江戸東京博物館館長。工学院大学特任教授。おもな受賞=「明治の東京計画」(岩波書店)で毎日出版文化賞、「建築探偵の冒険東京篇」(筑摩書房)で日本デザイン文化賞・サントリー学芸賞、建築作品「赤瀬川原平邸(ニラハウス)」(1997)で日本芸術大賞、「熊本県立農業大学校学生寮」(2000)で日本建築学会作品賞。



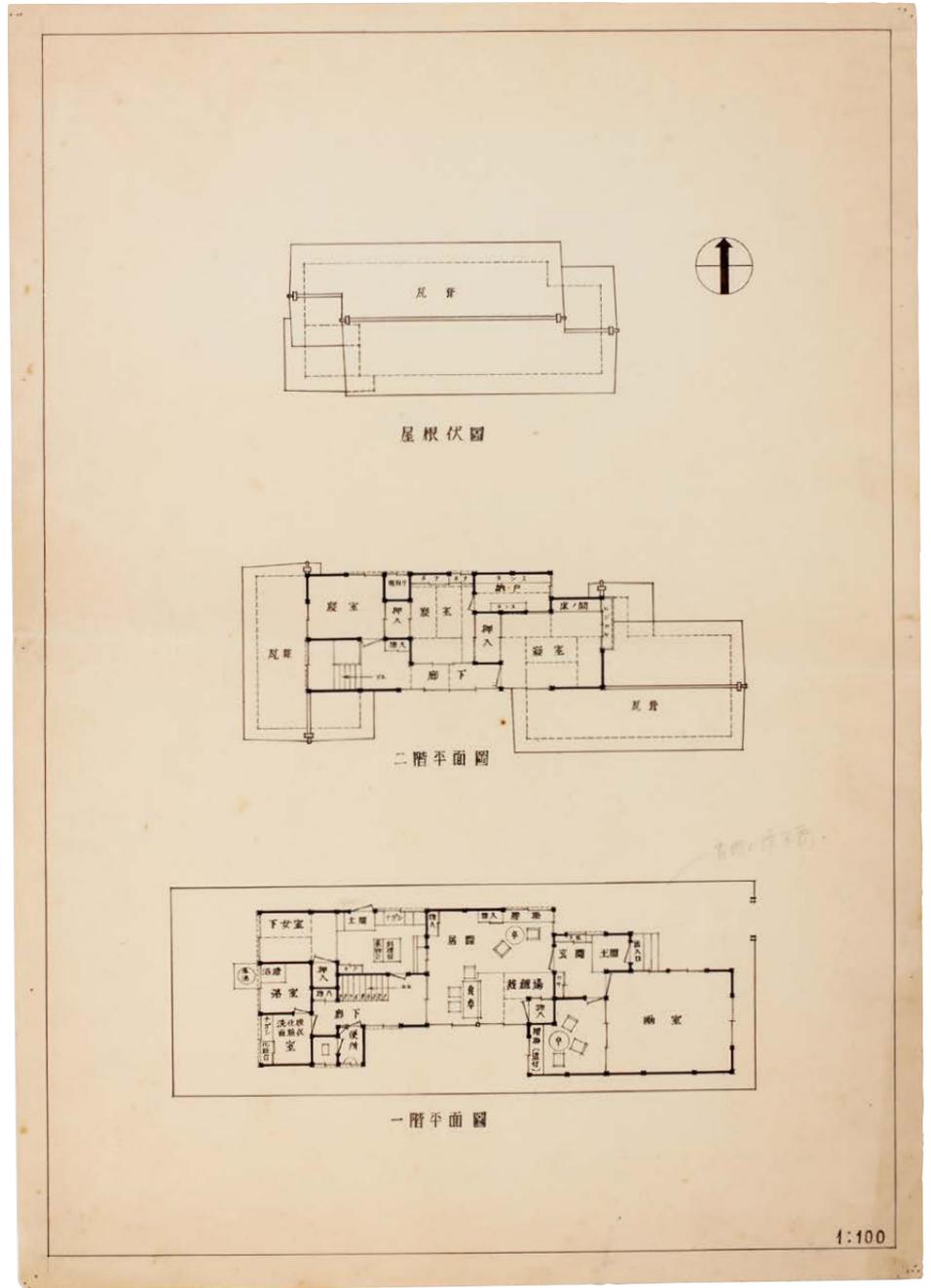
Fujimori Terunobu

# 併住現 走宅代

Fujii Koji × Fujimori Terunobu

## 平面図

0 2 4m N  
1/300



藤井厚二はグラフィック用紙上で案を検討した後、普通の図面に落として使った。彼の感性の底には幾何学があり、それにふさわしい設計法としてグラフィック用紙が選ばれた。図は寸法等のない設計当初の清書図面(現状とは対応していない)。

# 日本郵政 大手町本社

JAPAN POST GROUP HEADQUARTERS

日本郵政グループはこのほど本社機能を霞が関から大手町に移転し、日本郵政、日本郵便、ゆうちょ銀行、かんぽ生命保険のグループ4社の従業員約6000人が引っ越しを完了した。

新オフィスは2018年8月に竣工した「大手町プレイス」ウエストタワーの3階と6、24階を占め、延床面積は6万㎡。見どころ満載の新社と水まわりを取材した。

移転プロジェクトの陣頭指揮をとった齋藤隆司さん（現・日本郵政不動産）によれば、民営化後、郵政グループの本社機能は拡大の一途をたどり、霞が関の本社ビルだけでは収まりきらず、周辺のビルを含めた8カ所に分散していたという。

「これではさまざまな業務の効率やグループ間の意思疎通が阻害され、交流による相乗効果も生まれないので、どこか1カ所に集約しようということで移転計画が始まりました」

6000人が収容できるビルはなかなかなく、最終的にかつ

て通信ビルがあった敷地に建つ再開発ビルへの移転が決まり、ゆかりのある古巣・大手町に戻ることになった。

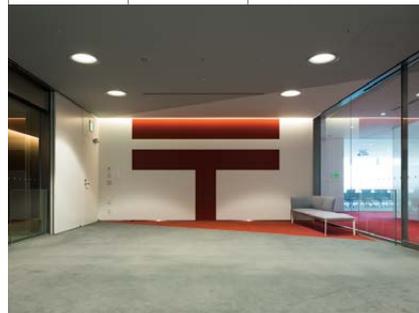
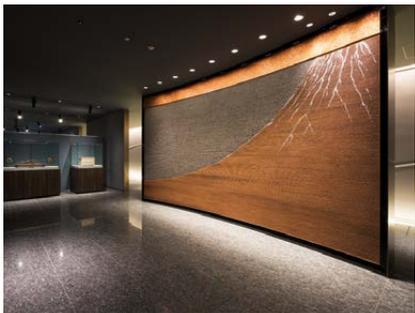
## 日本郵政 ならではの意匠が 各所を彩る

移転を機に、グループ間の垣根をなくすことでシナジーを生み出し、社員の創造性を刺激し、ホスピタリティが向上するようなおフィスをつくりたい。人、情報、地域を結ぶ場になりたい——それが日本郵政としての要望だったと齋藤さんは語る。そこで、当然ながら、共用スペースの充実が求められることになった。「齋藤さんが強いリーダーシップを発揮されたこともあって、なかでも気合いが入っているのが、3階の応接会議室です」と語るのは、新本社全体の設計を手がけた日本設計の崎山茂さん。実際に見るとその完成度に驚かされる。ガラスで仕切られた複

切手のドット絵で彩られた応接会議室の天井。



ギャラリー入口の「富士山（挾土秀平作）」。



壁面に大きな郵便記号が描かれた会議室ロビー。

## 日本郵政グループの各社を 1カ所に集約した新オフィス

の前島密の1円切手をはじめ、「見返り美人」月に雁などの切手をモチーフにしたグラフィックが描かれているのだ。やわらかな色合いのこれらの天井画は、交差点の向かい側から見上げるとガラス越しにうつすら透けて見え、郵政グループのイメージを街に発信するサインの役目も果たしている。

一方、14階に13室ある会議室には「北陸」「沖縄」など、13の支社名がつけられ、それぞれに各地域の郵便番号で構成した地図グラフィックが描かれている。ガラス壁面には全部で12万個あるという郵便番号が地域ごとにびっしり並び、全国から訪れるお客さまとの会話のきっかけになることもあるそうだ。さらに、社員食堂も凝っており、社員用のキッチン、座敷席、ボックス席など多様なコーナーを確保。連続する柱には社史のエポックとなる年表が描かれ、旧通信ビルの意匠で多用されていた正三角形を組み合わせた数字で、その年号を表現している。

## LGBTにも配慮したこまやかな水まわり

さて、グラフィックがインテリアを形づくっているような、これらの遊び心あふれる共用スペースと比べると、基準階のトイレルは白さが際立つシンプルなお内装。窓のない細長い空間だが明るい印象で、両サイドに出入口があるので閉塞感もない。崎山さんによれば、限られたスペースに必要な個数の衛生陶器を配置する制約上、用を足すエリアと洗面エリアを明確に分けることができなかったため、各コーナーの配置には気を配ったという。男子トイレは中央に大使

女子トイレ



個室の正面に洗面器を置いた省スペースの配置。手前に歯磨きにも用いることができる洗面器、壁面には小物入れ。

男子トイレ



手前と奥の2方向から出入りすることができる間取りになっている。

個室



トイレ全体と同様に、個室室内も清潔感のある白い内装。

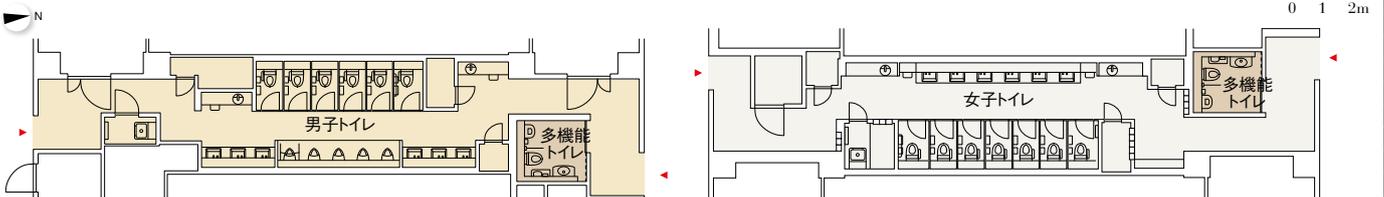
多機能トイレ



さまざまな状況の人が使いやすいよう、男女とも入口に配置されている。

17F トイレ平面図

1/250



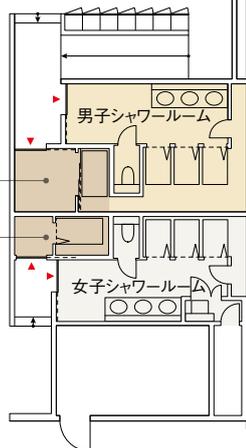
## シャワールーム



男子用。洗面カウンター、鍵付きロッカー、トイレも完備している。

多様性に配慮し、性別を問わずに利用できる個室タイプを併設している。

「どなたでもご利用いただけます」と表示されたシャワールーム



### 健康増進施設

### 入口



社内の部活動などで活用している施設。奥に男女別のシャワールーム。

男子シャワールームの入口。バリアフリーのためにスロープを設置。

15F シャワールーム平面図

0 1 2m  
1/250

## 個室



外部の方の使用が多いフロアのため、高級感のある木調の内装。

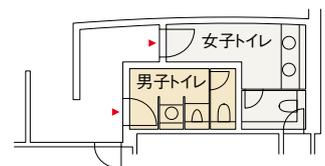
## 男子トイレ



屏風のような壁面と間接照明が、高級感のある空間を演出している。

## 22F トイレ平面図

0 1 2m  
1/250





大手町プレイス ウェスト  
タワー（日本郵政グル  
ープ：3階と6～24階）。

## 日本郵政 大手町本社

### 建築概要

所在地	東京都千代田区 大手町二丁目3番1号 大手町プレイス ウェストタワー 3階と6～24階
-----	--

### 大手町プレイス ウェストタワー

施行者	NTT都市開発（ウェストタワー） 都市再生機構（イーストタワー）
主要用途	事務所、店舗、カンファレンス、 地域冷暖房施設、駐車場など 日本郵政グループ：3階と6～24階
設計	日本設計
施工	竹中工務店 斎久工業（衛生）
敷地面積	19,898.68㎡ （面積は、いずれもウェストタワー、 イーストタワーの合計）
建築面積	13,668.48㎡
延床面積	353,830.54㎡
階数	地下3階、地上35階、塔屋2階
高さ	178m
構造	鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、 鉄筋コンクリート造
設計期間	2009年1月～2015年5月
施工期間	2015年5月～2018年8月

### おもなTOTO使用機器

#### 健康増進施設 15F

●シャワーユニット JSV0812TW

#### オフィスフロア 17F

●男子トイレ／女子トイレ

壁掛壁排水大便器 C473P

ウォシュレットP TCF585Y

クリーンドライ（高速両面タイプ） TYC420W

アンダーカウンター式洗面器 L520

ペッセル式手洗器 L652D

●男子トイレ

壁掛壁排水小便器 UU500

●多機能トイレ

多機能トイレユニット（特注）

#### ギャラリー階 22F

ネオレスト（特注）

マイクロ波センサー壁掛小便器 XPUI1

洗面器 CEL531R-MW（セラオリジナル）

器ブースと小便器を向かい合わせに配し、その外側に洗面器、さらに一番外側に歯磨きにも用いることができるように配慮した洗面器を別途配置。女子トイレは中央に向かい合わせにブースと洗面器を配し、両端に歯磨きにも用いることができる洗面器を配置している。どちらも入口に近いほど、清潔感がより求められるエリアになっているというわけだ。

また、女子トイレは洗面所の鏡に隣の人やブースから出てきた人が映り込まないように、鏡の幅や配置についても細かく検討したという。「そんなところまで気を遣ってくれていたとは知らなかった」と齋藤さんは驚く。「オフィスで仕事をしていると自分も感じるのですが、昔に比べて煙草を吸う人が減ったこととあつて、トイレは貴重な息抜きの場になっています。だから、限られた広さでもできる

けゆったりできる空間にしたいと、トイレづくりのためにヒアリングを重ねるなど、結構細かいところまで考えているんですよ」と崎山さんは語る。

なお、基準階のトイレには、男女トイレそれぞれの一方の入口を入ってすぐの位置に多機能トイレがあるが、これは車いす使用者やオストメイトだけでなく、LGBT（性的少数者）にも配慮したもの。廊下から少し奥まった位置に配することで心理的に入りやすくしている。

次に、大会議室やギャラリのある22階のトイレは、ゲスト用にあふさわしい上質な落ち着きのあるインテリアだ。洗面コーナーの鏡の背後の壁には艶のある白いタイルが貼られ、間接照明による陰影が美しい。「今回このビルの内装では日本の伝統工芸の雰囲気を出すために、タイルを多用しました。ここでも釉薬がかかったタイルを使うこと



日本設計  
PM・CM部  
理事

### 崎山 茂

Sakiyama Shigeru



日本郵政不動産  
事業創造部長  
（前 日本郵政 本社移転推進室長）

### 齋藤 隆司

Saito Takashi

で、少し和を感じさせる深みを出しています」と崎山さん。

最後に、15階にあるシャワールームを見学した。健康経営に力を入れる同グループでは、このフロアに柔道や剣道、ヨガなど、多様な活動に使える広い健康増進施設を設け、隣にシャワー室も確保しているのだ。男女別に、複数のシャワーブースが配され、洗面カウンター、トイレ、鍵付きロッカーも完備。ここにもLGBT配慮のシャワーブースが別に設けられている。

齋藤さんいわく、「郵政グループには霞が関に本社がある頃から皇居のまわりをランニングする人が大勢いました。以前はジムなどの福利厚生施設もあったのですが、スペース不足からほとんどオフィスに用途転換されてしまったので、大手町に移転するならばぜひ復活してほしいという声は多かったんです。今は自転車通勤する人も結構多い

ですし、金融機関のメンテナンスや災害対応のために宿泊する社員もいますから、リフレッシュできるシャワールームは非常に喜ばれています」。

ちなみに、同オフィスは環境性能評価指標であるLEEDのCI（Commercial Interiors）部門においてゴールド認証を取得。省エネ性能だけでなく、節水性、建設中の廃棄物管理、室内温熱環境の質などの性能に關しても世界的レベルであることが認められた。「トイレの節水型機器も大いに役立っていると、思います」と齋藤さん。

どこを見てもうらやましいばかりに快適で、企業のオリジナリティも感じられ、さぞ社員の満足度も高いにちがいない最先端オフィス。大規模な移転によるオフィスの統合は、今後、社員の意識や働き方にどんな変化をもたらすのだろうか。

# それは本当に必要か。

Is It Truly Necessary?

たった一枚の塀から設計活動を始め、  
「躯体の窓」や第32回吉岡賞を受賞した「リビングプール」により高い評価を受けて、  
建築界の注目を集めた増田信吾+大坪克亘。  
彼らは、「場」に大きく影響する部位に着目し、  
細やかな「観察」と「診断」によって場に寄与する対象を見極め、設計すべき「計画」へと導いていきます。  
本当に必要なことをどのように見出していくのか、彼らの探求の軌跡をご覧ください。



©Nagai Anna

始めの屋根

2016年、東京都



©Nagai Anna

庭先のランドマーク

2019年、東京都

それは本当に必要か。

文／増田信吾+大坪克亘(建築家)

大学を卒業してすぐに手がけた最初の設計は、住宅の塀だった。家の境界を成すその一枚の壁によって、僕たちの建築におけるそれまでの価値観は一変した。10m足らずの長さの壁が、公私を分ける切実な境界であり、人の生活と庭の植生、街並みを巻き込んでいった。その壁は、その家の暮らしとその界限にとつて、最も優先的に設計すべき「前提」に思えた。以降、僕たちは、設計を行う際に、「それは本当に必要か。」を常に自分自身に問いかけてきた。

その後の2015年、アジア諸国の建築家協会を統括する組織アルカシア (ARCASIA) から依頼を受けた。タイ、インド、シンガポール、中国、日本の若手建築家に、「Future of the Past (過去の未来)」というテーマで自国のリサーチを行い、そこからのデザインの可能性をレポートとして提出してほしいというものだった。多くの「伝統」が現代社会から切り離され、もしくは活用よりも保存することに重きが置かれる今日、「Past」に戻って、あり得た「Future」を再構築する、という目的だった。

われわれがリサーチしたのは、外来宗教が渡来する以前の日本に存在していた宗教の原初的形態とされる「磐座<sup>いわくら</sup>」である。磐座とは神の鎮座する所であり、多くの場合は自然の岩石をさす。古神道における自然崇拜(アニミズム)では、太陽、山河、森林、海を神域とし、石や樹木を神霊が依り憑く対象物であるご神体と見立て、磐座信仰や神籬<sup>ひろぎ</sup>信仰が始まったとされる。その後建てられた神を祀る建物、「社」はあくまでその場所

次回  
予告

妹島和世+西沢立衛/  
SANAA展

本展は、世界中で建築設計のめざましい活動を続け、2010年には建築界のノーベル賞と称されるプリツカー賞を受賞した、建築家ユニット、妹島和世+西沢立衛/SANAAの展覧会です。国内外での最新プロジェクトの状況を紹介いたします。

会期  
2020年5月14日(木)~8月9日(日)  
講演会  
2020年5月15日(金)/  
有楽町朝日ホール



TOTOギャラリー・間

所在地  
東京都港区南青山1-24-3  
TOTO乃木坂ビル3F  
電話/03(3402)1010  
ファクス/03(3423)4085  
開館時間/11:00~18:00  
休館日/月曜日・祝日、  
夏期休暇、年末年始、展示替え期間  
入場料/無料  
アクセス  
●東京メトロ千代田線  
「乃木坂」駅下車 3番出口徒歩1分  
●都営地下鉄大江戸線  
「六本木」駅下車 8番出口徒歩6分  
●東京メトロ日比谷線  
「六本木」駅下車 4a番出口徒歩7分  
●東京メトロ銀座線・  
半蔵門線、都営地下鉄大江戸線  
「青山一丁目」駅下車  
4番出口徒歩7分



<https://jp.toto.com/gallerma>

会期/2020年1月16日(木)~3月22日(日)

増田信吾+大坪克亘

Masuda Shingo+Otsubo Katsuhisa



増田信吾(左)+大坪克亘(右)

ますだ・しんご+おおつぼ・かつひさ/2007年に増田信吾(1982年生まれ)は武蔵野美術大学を卒業、大坪克亘(1983年生まれ)は東京藝術大学を卒業し、増田信吾+大坪克亘を共同主宰。増田信吾は2019年より明治大学特任准教授。おもな作品に「軀体の窓」(2014)、「リビングプール」(14)、「始めの屋根」(16)、「街の家」(18)、「つなぎの小屋」(18)、「庭先のランドマーク」(19)など。

おもな受賞にAR Emerging Architecture Awards大賞(14)、第32回吉岡賞(16)などがある。



軀体の窓

2014年、千葉県



つなぎの小屋

2018年、神奈川県



リビングプール

2014年、山形県

を示すサインでしかなく、岩と周辺環境からなる場所性そのものが重要だとしている。ご神体である岩や樹木が及ぼす影響でその周辺の植生や景色、気候条件が変わり、ほかとは異なる場所が生まれる。そこに人が惹きつけられて集まり、踊り、祈った。言い換えれば、人と場のあいだを絶妙に取りもちながら圧倒的な存在でまわりに影響をおよぼす磁力、そんな力強い場所性を岩石が生んだ。

僕たちも、人と場の密接な関係を構築したい。その場に根本的な影響を与えられる仕組みが設計されることに価値はある。異なる場がぶつかる境界上や、窓や基礎や軒といった部分、見過ごされがちな細かな気付きに、その価値の源が潜んでいたりする。

本展覧会では、今まで実施してきた試みを、プロジェクトごとに完結したイメージでプレゼンテーションする方法をとらず、これまでの実践において、どのように設計されるべきかを発見し、状況のなかはどう定着させてきたかを分けて展示する。そして、これまで見過ごされてきた視点や共通点を、プロジェクトを横断しながら探したい。外側にまで大きく視野を広げること、そして目を凝らすことを同時に重ねること、本展に必要なものは何か、をあらためて考えたいと思う。

# News File

TOTOの最新情報

TOTO News **4** ↓

**未来のオフィス空間  
「point 0  
marunouchi」に  
参画しています**



未来のオフィス空間  
「point 0 marunouchi」内観。

TOTOは、「未来のオフィス空間」を目指した会員型コワーキングスペース『point 0 marunouchi』での実証試験にオカムラ、ダイキン工業などとともに参画しています。ここでは、各社の最新技術やデータ、ノウハウを活用し、多様な働き方に合わせた空間コンテンツを導入しています。TOTOではシャワーブースにて使用実態のデータ収集と分析を行い、他企業との協創により、コンテンツの高度化や新しいサービスの創出に取り組んでいます。

<https://www.facebook.com/point0marunouchi/>

©Nacisa & Partners Inc.

TOTO News **3** ↓

**TOTOギャラリー・間  
北九州巡回展  
「堀部安嗣の建築展  
——懐かしい未来へ  
向かって」を開催中**

TOTOギャラリー・間は、北九州巡回展「堀部安嗣の建築展——懐かしい未来へ向かって」をTOTOミュージアムにて開催中です。デビュー作である「ある町医者の記念館」(1995)や代表作の「竹林寺納骨堂」(2013)、客船「ガンツウ」(17)、福岡市にあるモデルハウス「fca」(17)などの最新撮り下ろし映像を含め、建築写真、模型、スケッチなど堀部氏の建築の真髄がご覧いただけます。建築こそが、慣れ親しんだ変わらない価値を示し、人々にとって大切な未来の原風景になってほしいという堀部氏の熱い想いをぜひ味わってください。

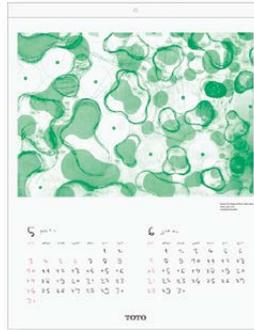


竹林寺納骨堂(高知県、2013年)  
写真/鈴木研一  
(堀部安嗣氏ポートレート)

TOTOギャラリー・間  
北九州巡回展  
「堀部安嗣の建築展  
——懐かしい未来へ向かって」  
会期:2020年3月8日(日)まで  
休館日:月曜日  
場所:TOTOミュージアム  
(北九州市小倉北区中島2-1-1)  
<https://jp.toto.com/museum>

TOTO News **2** ↓

**2020年版  
TOTO  
ドローイング  
カレンダー**



2020年版TOTO  
ドローイングカレンダー。

2020年のカレンダーは石上純也氏の建築ドローイング集です。石上氏は2010年のヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展で最高賞である金獅子賞を受賞。また19年は芸術選奨・美術部門において文部科学大臣新人賞を受賞、建築的な思考を発展させながらも、建築の枠にとらわれない自由な発想で、斬新な作品を発表しつづけています。本カレンダーでは、石上氏が手がける多彩な作品の世界を魅力的なドローイングを通じてご紹介します。



TOTO宮島おもてなしトイレ外観。

TOTO News **1** ↑

**TOTO宮島  
おもてなし  
トイレ**

世界遺産・厳島神社を有する観光地・宮島に、廿日市市とTOTOが官民協働で整備した「TOTO宮島おもてなしトイレ」は、2019年8月1日のオープンから5カ月がたちました。宮島を訪れる外国人を含む多くの観光客に利用され、喜びや感嘆の声をたくさんいただいています。施設1階には各男女トイレのほかに、ファミリートイレ、車いす専用トイレなど全7タイプのトイレがあり、訪日外国人を含めた多くの方に使いやすいパブリックトイレの最新事例となっています。観光案内所と休憩スペースも併設していますので、広島・宮島観光の折にはぜひお立ち寄りください。

TOTO宮島おもてなしトイレ  
広島県廿日市市宮島町536-1  
(宮島郵便局隣)

TOTOからのお知らせページです。  
イベント、新商品、最新情報など知っておいていただくと  
お役に立つ情報を心がけています。  
合わせてご注目ください。

<https://jp.toto.com/publishing>

## 「TOTO通信」定期購読を ご希望の建築家をご 紹介ください。

お申し込みはTOTO通信  
データ管理室まで  
\*法人あての送付となります。

Tel  
093-563-2055

e-mail  
toto\_tsushin@jlink-net.com



アクセス／●東京メトロ千代田線  
「乃木坂」駅下車3番出口徒歩1分  
●都営地下鉄大江戸線「六本木」駅  
下車徒歩6分 ●東京メトロ日比谷線  
「六本木」駅下車徒歩7分 ●東京メ  
トロ銀座線・半蔵門線・都営地下鉄  
大江戸線「青山一丁目」駅下車徒歩  
7分

## Bookshop TOTO 2F

所在地 東京都港区南青山  
1-24-3  
TOTO乃木坂ビル2階  
電話 03(3402)1525  
定休日 月曜日・祝日・  
「TOTOギャラリー・間」  
休館中の土曜日・  
日曜日・夏期休暇・  
年末年始

## TOTO出版 2F

所在地 東京都港区南青山  
1-24-3  
TOTO乃木坂ビル2階  
電話 03(3402)7138

全国の書店でお求めください。直営  
店Bookshop TOTOでもお求めにな  
れます。書店遠隔の方はお問い合わせ  
ください。

## セラトレーディング B1・1F

所在地 東京都港区南青山  
1-24-3  
TOTO乃木坂ビル  
電話 03(3402)7134  
(東京シヨールーム)  
定休日 月曜日・祝日・  
夏期休暇・年末年始

## TOTO出版のお知らせ

# 1

Book

## 『Adaptation 増田信吾+大坪克亘 作品集』

同封の  
「TOTO通信アンケート」に  
お答えいただいた方の  
なかから、  
抽選で10名の方に  
プレゼントいたします。



独自性に富んだ作品を生み出す2人組の若手建築家ユニット増田信吾+大坪克亘の初の作品集。2014年発表の「躯体の窓」以降の10作品を掲載。あたりまえの現実に向き合い、率直なアプローチでまだ見ぬ建築の可能性を拓く彼らの姿勢が読み取れる1冊。写真家・永井杏奈氏が本書の

ために撮り下ろした場の空気を取り込んだ写真も見どころ。TOTOギャラリー・間での展覧会に合わせて発行。

著者	増田信吾+大坪克亘
定価	3,000円+税
体裁	200×247mm、ハードカバー、176ページ
発行日	2020年1月

# 2

Book

## 『アーキテクテン・デ・ ヴィルダール・ヴィンク・ タユー建築作品集』

2018年ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展で銀獅子賞を受賞し、世界で注目を集めはじめていたベルギー若手建築家ユニットの作品集。写真・図面・テキストの3部構成で63作品を収録。個々の場の条件のなかでポジティブに建築に取り組む彼らの姿勢が読み取れる1冊。巻頭には彼らの

活動に造詣の深い建築家・塚本由晴氏との対談を収録。彼らの作品を理解するうえで、とても重要なテキストとなっている。

著者	アーキテクテン・デ・ ヴィルダール・ヴィンク・タユー
定価	2,900円+税
体裁	128×182mm、ソフトカバー、360ページ
発行日	2019年9月

## セラトレーディングのお知らせ

## ドイツ・Duravit社 フローティングタイプの 洗面キャビネット 「L-CUBE」シリーズ

セラトレーディングでは、ドイツ・Duravit(デュラビット)社の洗面キャビネット「L-CUBE(エルキューブ)」シリーズをラインアップしています。

近年の水まわり空間は、孤立させず、より居住空間に近い位置へと変化してきている傾向にあります。そのようななか、L-CUBEシリーズのキャビネットの面材にはオークの突板を使用。インテリアのように魅せる水まわりで、丁寧な暮らしを始めてみませんか。

ドイツ・Duravit社 L-CUBEシリーズ



L-CUBEシリーズ  
洗面キャビネット DV8001-11  
希望小売価格:306,000円(税別)

当商品を掲載した「セラ総合カタログ2018」は、上記二次元バーコード・ウェブサイト、またはファクスにてご請求ください。

WEB: <https://www.cera.co.jp>  
FAX: 03-3402-7185

# TOTO びっくリーン技術。



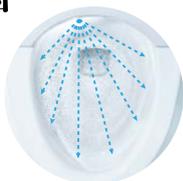
TOTO通信  
2020年  
新春号

TOTO通信 2020年  
発行日: 2020年1月1日  
〒105-8305 東京都港区海岸1-2-20 汐留ビルディング24F  
T.E.L.03(6836)2172

## 使うたび除菌

便器もノズルも  
自動除菌で清潔つづく

- きれいな除菌水



## 汚れツルリン

約1200°Cで焼き上げた、ナノレベルに  
なめらかな陶器表面だから、  
汚れがツルリと落ちてずっときれい

- セフィオンテクト
- プレミスト
- トルネード洗浄



## おそうじ超ラク

凸凹をそぎ落としたカタチで、  
便器フチ裏もないから  
サッとひとふき、お手入れかんたん

- フチなし形状
- お掃除しやすいデザイン



TOTO技術相談室

電話: 0570-01-1010 FAX: 0570-01-2111

受付時間: (平日) 9:00~18:00 (土曜日) 9:00~17:00 (日・祝・夏期休暇・年末年始を除く)

建築専門家のための情報サイト

COM-ET(コメント)

<https://www.com-et.com>

TOTOホームページ

<https://jp.toto.com>

※詳細はカタログまたは弊社WEBサイトをご覧ください。

『TOTO通信』のお届け先などの変更はお客様No. (封筒の宛て名ラベル右上に記載)も併せて下記までご連絡ください。

TOTOCATALOGセンター内 TOTO通信データ管理室 TEL.093(563)2055 FAX.093(571)0999

\*当社ならびに当社グループ会社は、個人情報の保護を社会的責務と考えます。お客様からお預かりした個人情報は、関連法令および社内諸規定に基づき慎重かつ適切に取り扱います。詳細はTOTOウェブサイト(<https://jp.toto.com>)をご覧ください。



この情報誌には植物性・森林認証材などを原料とする環境に配慮した用紙、ならびに印刷インクとして、環境にやさしい植物性インクを使用しています。